

# The Kansai University Bulletin

Osaka, May 15th, 1926—No. 39

# 報學山里千

行發日五十月五

號九十三第

年五十正大

The First Day of the Freshmen at Senriyama, 1926.



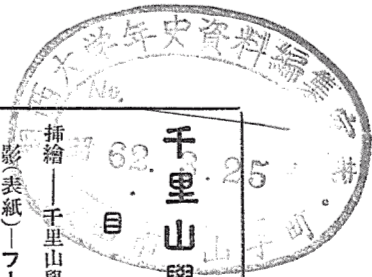
影撮念記式學入科豫學大るけ於に庭學山里千

阪 大

堀佐土話電  
番〇七五五・九四〇一

局報學學大西關

座口金貯替振  
番五七八二一阪大



# 千原山學報 第三十九號

次

挿繪——千原山學庭に於ける大學豫科入學式記念撮影(表紙)——フーシェ博士——フーシェ博士歡迎茶話會——千原山親睦會春季例會——戶田留學生の出帆——布井良太郎氏——優勝せる本學馬術部選手——英國に於ける學生軍事教練——カーヴァー教授——イリー教授——ホブソン教授——エルサレム教授——パウンド教授——リカード——ジョン・ラスキン——アダム・スミス——イエスの甦生に就て——關西大學教授 櫻井 匡——近世奴隸制度——ジェー・ケー・イングラム——學内報——フーシェ博士歡迎會——學部及大學豫科始業式大學豫科入學式並宣誓式舉行——千原山親睦會開催——千原山學舍本部及び圖書館の建設豫定——千原山學舍門欄起工——織田顧問の渡歐——戶田留學生出發——第二商業學校新教諭囑任——第二商業學校學級擔任教諭級長副級長並學友會委員——木村擴張後援會長の阪和鐵道株式會社社長就任——佐々教授學外講演——大學豫科入學試驗問題——校友の面影——布井良太郎氏——校友彙報——學生彙報——柿崎記念文庫資金寄附金申込者芳名——初めてチヨークを執りて——今 山 生——歐米諸學者の面影——千原山俳壇——千原山歌壇——本學擴張基金寄附申込者芳名

## イエスの甦生に就て

關西大學教授 櫻井 匡

イエスは神國建設を以て自れの使命をなしたことが實現のために活動したのであつたが、神の國未だ建設されず、その使命の充分に果されざるに十字架上の露が消えたのである。イエスはメシヤである、イスラエルを救はん者こそ此の人である。信じた弟子達は遠からずして神の國が建設される事信じ喜んでこれに従つてゐたのであつた。然るにイエスは其の期待を裏切つて十字架上に醜き死を遂げて了つたのである。然しイエスの人格こそその教説は永久に亡び去つたのではなかつた。イエスの死に痛く失望落膽した弟子達も二度奮起する様になり、次いで彼らを中心とするメシヤ教團の發生となり、それが漸次發展して基督教會を樹立する様になつたのである。基督教會の發達に至るまでには一再ならず顯著なる事件が起り、傑出せる人物ボーロの出現によつて大發展を遂げ、世界的宗教までなつたのである。併し今これらの問題には觸れず、只イエス死後、一時敗北の姿を現はした弟子達が奮起して、捲土重來、震天動地の大活動を成すに至るまでに彼等を奮起せしめた事件即ちイエスの復活に就て私見を述べ様とするのである。

イエスは己が死の免るべからざる事であるを宣言したのであるがまた、死よりの復活あるべきをも宣言したのである。この宣言に對しイエスを死罪に定めし祭司の長、特に教敵パリサイ派の人人は、イエスの弟子達がその宣言の如くその屍を置きてイエス復活せり

と云ひ振らさん事を憂ひ、これが防禦を講じたのである。パリサイの人人はピラトの許に行きて云つてゐる。

「主よ我濟憶起せり、かの偽者いきて在り時三日の後甦らん云ひし、是故に命じて三日に至るまで墓を固守せしめよ、恐らくは其弟子來りて之を竊み死より甦りたりと民に言はん、然らば後の惑は先より愈勝るべし」(太二七、六三、六四)

ピラトもこのパリサイ人らの言葉によつて早速イエスの屍を納めたる墓の入口に石を置き、固く封印をなし、且つ番兵をして嚴重に警護せしめたのである。然るに三日目の朝に至つてイエスの屍は墓の中には見えなくなつた。七日の前の日未明に墓を訪れし婦人達は空虚なる墓を見るに過ぎなかつた。その時一人の天使現はれて、十字架に釘られしイエスは死より甦つてガリラヤに往けり告げたのである。而してその後甦れるイエスは各地に而かも種種なる人人に現はれたのである。

- 一、マグダラのマリアに現はる。
- 二、エマオへの途中二人の弟子に現はる。
- 三、十一人の弟子に現はる。
- 四、トマスに現はる。
- 五、ガリラヤの湖畔に七人の弟子に現はる

これらの記事を傳ふる福音書簡に多少の事實に關する相違はあるが等しくイエス復活せりと傳へてゐるのである。馬太の記すところによれば三日目の朝婦人達が墓を訪れし時には大いなる地震ありて、墓の石を轉ばし、天使の上に座し居たりとある。また約翰は一向に地震の事なき知つてゐない様である。また天使の數に就て記者達の記すところに相違

がある、馬太、馬可は天使を一人記し、(太二八、二、五)、(可一六、五)路可、約翰は二人記してゐる。(路可二四、四、約廿、十二)併しイエス復活に就て傳ふるところに於て一致してゐる。

然らばこの福音書の傳ふるところのイエス復活の記事はそのままの事實であつたらうか或はこれ異なる事實がかく傳へらるるに至つたものであるか、私はこの點に就ての考を述べて見様と思ふのである。

イエスの屍を納めた墓が空虚になつて居つた云ふ事から惹いてイエスは甦つたのである云ふ評判が生じたか或はマグダラのマリアが偽りの物語をなしてそれからイエス甦れりとの話が漸次輪をかけて傳へられる様になつた云ふ様な解釋をする人もあつた様なる解釋説明はなされてゐるのである。或は墓の番兵らが墓參客のために自分らの栽培せる作物の荒される事のない様にイエスの屍體をば他の墓に移したのであるとも云ひ、或はマゼレビールの如きはピラトが一度はイエスを死罪にしたが後ち大に悔えて、その屍體を更によき場所に葬つたのであらうと云つてゐる。或はまたイエスの死そのものは假死的のものであつて眞に死んだものではなかつた云ふものもあつた。鬼に角墓にその屍體の無かつた云ふ事は様様な想像を産むに充分である。併し乍ら福音書の記事によれば婦人が朝早く墓を訪ねた時には當然番をして居る筈の番兵が居たことも居ないとも記してゐないピラトは確かに番兵をして固く守らして居た筈なのに番兵が見えなかつた、番兵が居ないで天使が居つた云ふ事は不思議である。思ふに婦人達は其の訪れの時の地震に

よつて石が轉び出したりしたのを見て驚き、それがイエスの甦りとの關係あるものの如くに早合點したものはあるまいか。そしてその事を告ぐべくペテロを訪ねんしたものであらう。また一方ペテロはイエスが生前語りし如く甦り來る事を信じて居た一人である。イエスがペテロに對して「我れなんぢのためにその信仰の失せぬ様祈りたり、なんぢ立ち歸りてのみ兄弟たちを堅ふせよ」と云ひたる人である。マリヤよりの話を聞いてペテロのイエス甦生に對する信仰はいよいよ強くなり、確實になつて來たのである。彼は直ちに弟子達にこの事を告げたのであつて、他の弟子達もまたイエスの甦生を信する様になつたのである。

福音書を開いて不思議に考へられる一事はイエスの死に對してされる弟子達の態度である。イエスは遂に十字架についたのであるが弟子達は全く何事もなまなかつた。イエスの死を遠くより眺めて居る位が關の山であつて、その屍を取片附ける者もなかつたのである。これに反しバプテスマのヨハネが死せる時にはその弟子達はヨハネの屍體を引取つてこれを丁寧に葬つたのである。然るにイエスの弟子達は一人としてこれを爲せるものはない。イエスの在世當時にこそ、困苦に戰つて活動しはしたがイエスの死に及んでは全く意氣消沈、何の爲すところもなかつたのである。失望落膽の結果であつたか、或はイエスの死がイエスをメシヤとして受くる能はざらしたものであるか、何れにせよ、一度師に仰ぎし者に對する態度としては在り得べからざる態度である。でイエスの屍體を十字架より下して葬つた者はアリマタヤのヨセフであつた。このヨセフは如何なる人であつたか云ふに路加の記すところによれば、サンヒドリンの議員の一人で善且つ美しき人であり馬可の記すところによれば「神の國を望める人」であつた。また馬太は彼がイエスの弟子の一人であつたこと記してゐるが、ヨハネは弟子になる事はユダヤ人らの攻撃を受けり云ふので公に弟子とはならなかつたが私に弟子になつてゐたものであると云つてゐる。約十九(三十八)福音記者の記すところ多少の相違はあるが、彼がイエスと親密なる關係を保つてゐたことは明かである。勿論十二人の弟子の一人ではなかつた。兎に角彼はサンビドリンの決議の爲すところに反對し、イエス所刑の後ピラトの許に行き涙を以て乞ひ、十字架よりイエスを下して布に包み、自己の所有にかかるとして鑿て墓に葬つたのである。他の十二人の弟子達は何事も爲さなかつたのである。

然るに死せるイエスは甦生せり云ふ信仰が生じて來たのである。弟子達はこれがために奮起して來たのである。イエスの甦生、それはイエスの肉體の甦生であつたらうか、或は捏造的のものであつたらうか、或は生前イエスの人格の感化影響が弟子達の心底に於て復起し現はれて來たものであらうか。私はイエスの復活は弟子達の心に顯著に現はれたイエスの人格の力の復活であるを見たいのである。

イエス甦生の場所に就ては二種の記述がある。即ち馬太、馬可の二福音書に於ては、イエスの甦生はガリラヤに於て行はれたまなし天の使が墓の門口に立ち「彼は死より甦り爾曹に先ちてガリラヤに往けり」と云つたこと記されてゐる。また路加並びに約翰傳によればエルサレム附近に於て起きた事の様記してある。茲に問題となるのはこれら兩説の何れが信すべきものであるかである。さてこれは福音書資料研究の問題を決定して進まなければならぬ事であるが、大體に於て一般に認められて居る様に馬可を以て最古のもの最も信じ得べきものと見て、ガリラヤ説を正しと見様とするのであるがイエスの甦生は弟子達の精神的復活であるが故にその場所に就ては別に問題はないのである。マコ傳はハナクなきによれば六五年——七〇年迄の間に編纂されたものである。

甦生の時は死後三日目の朝であつた、この點は何れの福音書の記事も一致してゐる。併し若し甦生の場所がガリラヤであつたことすれば三日目云ふ事は少しく疑はしくなる。元來エルサレムとガリラヤとの距離は殆ど九十哩もあるから、金曜日に死んだイエスが日曜日の朝までにガリラヤまで行き得る筈がない。尤も十字架の建てられたゴルゴタの地が何所であるか判然してゐないので、或者はダマスコ門外の一少丘がその場所であつたこと云ふても居るが、何れにしてもエルサレムの郊外の餘り遠からぬ地點であつた。ヨハネは「イエスを十字架に釘つけし所は京城に近ければなり」(十九。廿)と云つて居る。そうすれば三日目の朝に既に九十哩を歩いてガリラヤに行つて居たこと云ふ事は受取り難いのである。尤も「三日目」と云ふ事はイエス在世當時しばしば「殺されて三日目に云ふ」と云つて居つたことであるが、それが正確に三日間を意味したか否かは疑はしいのである。單に死後三日した事を記者達が三日と云ふ様に

したものではないかと思はれる。イエスは嘗てヨナが三日三夜魚の腹の中に在つたこと云ふ事を以てパリサイ人の問に答へた事があつたが、それを結び付けてイエスの甦生を三日目としたものか、知れないと思ふ兎に角死後三日目とする必要はない、三日目なるが故に何の益するも云ふ事もない譯である。

弟子達の生國はガリラヤであつた。イエスを賣つたユダのみユダヤ人であつて他の十一の弟子達は何れもガリラヤ人であつた。而もガリラヤはイエスが最も活動された地であつた。イエスに従つて居た弟子達にまつては故里であり、又活動の舞臺として極めて意義深き、思出多い土地であつた。而して彼等はイエスの死に逢ふた場合離散したのであるが彼らの先づ向ふところはその故郷であつたに相違ない。イエスの甦生はエルサレムに於て起つたことなす人は弟子達が未だエルサレムの地を去らずして彼地に在りし間にイエスが甦つたのだこと云ふのであるが、むしろ故郷に歸つたこと考ふる方が眞實の様に考へられる。イエスの死後彼らは故國ガリラヤに歸つたのである。ガリラヤは彼らがイエスと共に活動せし地、想出多き土地である。弟子達の中には極めて情熱的なるペテロ、の如き人があつた彼らが此の地に於てイエスの風采を想起し、それがいよいよ鮮明になつて遂には全く甦つたものと考ふる様になつたことは吾人の考へ得らるることである。朝な夕な、様様な困苦に闘つて來た事を想ひ出して來る時、イエスの姿は必ず思ひ浮んだ事である。而かもその最後をも見届けずして歸つた事を思へば、その死の餘りに悲惨だつたことも考へたであらうその死の悲惨だつた事、その人格の崇高偉

大であつた事を結んで、彼らに深き印象を與へたであらう。且つ死せるイエスが果してメシヤであつたか否か云ふ事は彼等の以來常に考へ續けて居た事であり、相會ふ毎にこれを語り合つた事であらう、そしてその度にイエスの姿は鮮明の度を増し遂に實在せる姿を見、イエス甦れり信する様になつたのである。

一體義人復活の思想はユダヤの豫言者達も信じたところであつた。その記事はダニエル書に於て見られる。

「また地の下に睡り居る者の中衆多の者を目醒さん、その中永生を得る者ありまた耻辱を蒙りて限りなく羞づる者あるべし」(十二。二)。

とある。タニエル書記者はメシヤ出現の時期の既に近づけるを信じ、その時義人がメシヤの國に入り得ないとは甚だ不公平な事である。考へて、この甦生の信仰は生じたのである。即ち應報思想より必然の結果として生じて來たものなのである。勿論ユダヤに於ける甦生の思想は只これにのみ限つたものではない、ダニエルの記すところはイスラエル全部が甦るもの信じてゐた様であるが、又一方に於ては只義人のみ甦るものである云ふ信仰もあつた。イザヤ書に

「汝の死者は生き、わが民の屍は起きん」また、「塵にふすものよ、醒めてうたふべし、

汝の露は草木を潤ふす露の如く地はよき魂をuscitaん」(二六。一九)茲に云ふ死者は凡ての人を指すのでなく、義人のみを指したものである。

イエス當時のユダヤ教諸派に於てサドカイ派は死者の甦生を否認してゐる(太二十二。

二十三)が他の一派パリサイ派は靈魂の不滅、死者の甦生を信じてゐた。(佳二十三。八)更に他の一派エッセネ派に於ては靈魂の存在を信じてゐた様であるが、肉體の甦生は信じてゐなかつた。イエスは「我甦りて後ち、爾曹に先立ち、ガリラヤに往くべし」云つたのであるが、その甦りは肉體の甦生の意味であつたか、或は精神的意味であつたかを考へねばならないが恐らくイエスの意味したところは肉體の甦生ではないと思はれる。彼が唱へた神國の思想も精神的の意味であつた。然るにイエスの意味を解し得なかつた弟子達はこれを物質的に解した、それと同様に弟子達は甦生が肉體の甦生であるを誤解したのである。兎に角彼らはイエス甦れり信じたのである併しイエスの甦生は肉體の甦生ではない。或はまたイエスが暫時假死の状態に落ちて、それが甦つたのである云ふ様なものでもない。或はまた幻想が現はれたとか、幽霊が現はれたのである云ふものでもない、それは實に弟子達の精神的覺醒であつた、イエスの甦生ではなく、弟子達の精神的甦生であつたのである。精神的に覺醒した弟子、イエスの死を見て逃げた弟子達が甦つたのである、甦つた弟子達はイエスの姿を見たのである。もよゝり甦つた弟子の精神に映つたイエスは肉體的に云ふ事も出來様し精神的であるとも云ひ得るのである。

さてかくしてイエス甦生せりとの信仰は弟子達特にペテロから弟子達へ傳はつて行つた、彼らはイエス甦つた云ふ信仰によつて今迄の失望落膽も凡て慰められたばかりでなく、更に進んでイエスはメシヤなり信じてこれを説く様になつたのである。勿論甦生の

信仰と同時にイエスが爲せし奇蹟や教訓が一層明かになつて來た事は疑のないところである。イエスが甦つた云ふ事はイエスが眞のメシヤである事を證するものであつた。彼らは疑ふところなく、イエスはメシヤなり信じ、これを天下に宣傳し始めたのである。而して彼らをかき動かしたところのものは勿論イエスの人格である。その崇高なる人格の感化であつた云はねばならないのである。

イエスが唱へて來たところは神國建設であつた。併し弟子達の宣傳したところは決して神國思想ではなかつた。彼らが宣傳せるところは只イエスはメシヤなり云ふ事であつた「汝らはわが證人たるべし」云ふイエスの言葉を守るを以て彼らの責任、職分である考へたのであるかも知れないのである。彼の使徒行傳に於ける記事を見て決してイエスの神國思想には言及されてゐない。神國思想は全くイエスの死と共に消失したかの如く考へられるのである。ペテロの説教を稱せらるる使徒行傳第二章十四節—三六節の記事に見ても、神國思想は説かれてゐない、只イエスがメシヤである事を説くに止まつてゐるのである。而もイエスがメシヤである證據としてイエスの甦生を擧げて居る。彼は死に繋がるべき者ならざればや」云つてゐる。

實に彼らがつまづいたのはイエスの死のためであつた。メシヤは死すべきものではないと彼らは信じてゐたのである。されば自らメシヤなりと告白したイエスが死に就て語るべき彼らには解せざる事であつた。むしろ眞實にメシヤなりや否やとの疑もないではなかつたのであるが、偉大崇高なるイエスの人格に引付けられて彼らはイエスを離れなかつたの

であるが、實際イエスが十字架の上に死するに及んで彼等の失望は一時に來たのである。メシヤの死、これが彼らの不可解なる問題であつた。つまづきの原因であつた。併し一度甦りの信仰を得て、この問題は解決した。イエスは確かにメシヤであるを信する事が出来る様になつたのである。

かくて第一の主唱者がペテロである事は明らかである。他の弟子達は彼を中心として集まつた。そしてユタに代るべき一人を補充した十二人が一團となり一の教團となつて、イエスがメシヤである云ふ事を宣傳したのである。而かもこれが基督教會の基礎をなしたのである。彼らの熱心なる活動は彼のペンテコステの日に於ける集會に於てその如何に熱烈なるものなりしかを思はしめる。ペテロは雲の如く集まり來る群衆に向つて、イエスのメシヤなる事、メシヤを拒みしユダヤ人の國民的罪情を悔改して、パプテスマを受くべき事を説き、その結果三千人速度に改悔して彼らの團隊に加つた。その他ペテロミヨハネの如き人が倉門に於て生來の跛者を起たしたたなき奇蹟を見たる一般人はまた彼らの團隊に加はつたのである。而してこの團隊は只イエスをメシヤなりと説くに止まつてゐた。ユダヤ教との關係に於ても何ら區別を設けず、同様のものユダヤ教の一種位に考へたのである。従つてその宗教的行事に於てもユダヤ教の制度を始めそのまゝに行ひ、割禮洗禮を行ひ、日曜日にはイエス甦生を紀念するために禮拜はない、土曜日は安息日としてヤウエー神に對する禮拜をなしたのである。而かも或場合にはエルサレムの神殿に於てさへ禮拜をなし、儀式はユダヤ教に準じて在來の祈禱讚美歌、詩篇朗讀等をなしたと同時にまたイエスのたてたパンをさく晚餐式をも行つたのである。(第一〇頁に續く)

# 近世奴隷制度

ジェー・ケー・イングラム

近世に於ける奴隷貿易

先進諸國に於ける隸農制度の消滅後永からずして植民地奴隷制度なる新制度が現はるるに至つた。それは社會的要求の必然的結果でもなければ、人類進化途上に於ける一時的的要求に應ずるものでもなく、寧ろ政治的にも道德的にも變態性を帯ぶるものであつた。

イスパニア植民地 一四四二年、ポルトガル人がヘンリー航海親王に從つてアフリカの大西洋沿岸を探險しつゝあつた時、部下の一人である Antam Gonsalves が、數人のマウル人 (Moors, アフリカ北海岸に住する民族) を捕へて來たところ、親王は彼に命じてこのマウル人をアフリカに返還させた。そこで彼はこれを釋放しその代償として彼らから十人の黒人に幾許かの砂金を受取つた。このことは彼の同國人らの貪慾心を刺戟した、即ち彼らは多數の商船を仕立ててアフリカに向向き、その海岸に數個の要塞を築造した。多くの黒人はこれらポルトガル人の植民地からイスパニアに齎らされ、かくて植民地の奴隷貿易はこれらの黒人の子孫の、新たに發見された西半球への移入の形に於て初めて現るるに至つた、Nicolas de Ovando が一五〇二年にハイチ島 (Haiti) の總督として派遣せられた際、イスパニアの Seville その他の地方に生れ、キリスト教を信するやう教育された黒人奴隷たちを植民地に連れて行くことを許された。當時ハイチに多數の黒人がゐたことは一五〇三年の Ovando の書信に表れてゐる

彼はもうこれ以上連れて來ることを許さないやうに願つた。一五一〇年及びその後の數年に互り Ferdinand 王は、幾人かのアフリカ土人を鑛山で働かせるために同植民地へ遣るやう命じた。

これより先 Columbus は、イスパニアの商人が Haiti に送る家畜を、彼が捕獲したカリブ人 (Carib, 南米北部の土蕃) の交換を申し出た。實際彼は一四九四年にアメリカの酋長たちと戦つて獲た五〇人以上ものアメリカ土人の俘虜を、Seville で賣却させる積りで故國に輸送したのであつた。然しその賣買を許すべき勅令が發せられた後 Isabella 女王は土人たちの優しく上品なる性質を彼らの従順なることを聞いて興味を感じ、アメリカ土人に關する事務の管理者である Fonseca 僧正に命じて、彼らが俘虜になつた原因及び彼らの賣買の合法性が明かならしめらるるまで該勅令の中止を命ずべき書面を書かした。神學者たちはこの問題を中心に盛に論争したが、結局 Isabella はこれらのアメリカ土人をその故郷へ送還するやう命じた。

Chiapa の有名な僧正 Bartolomé de las Casas は Ovando の共々 Haiti へ行つて、アメリカ土人らが彼の支配下に苦んでゐる慘狀を目撃した。彼は一五一七年に土人たちのために有利なる法令を求むるためイスパニアに來り、かくて Haiti 在住のイスパニア人が各一人當り十二人を限り黒人奴隷を輸入する特權を有すべきことを Charles 王に獻策した。Las Casas はその著 "Historia de las Indias" に於て、彼がかくして陥れる誤りを悔いてゐる。殆ど同じ頃に同様の獻策をなせる他の善良なる人人が現れたが、その實行方法は格別

新しいものではなかつた。實際その頃未だ Flanders にゐた若い王は、一五一六年にその廷臣たちに植民地へ黒人を輸入するの特權を與へた、ただ Castile の執權 Jimenes は同年の法令でその實行を禁止しはしたが。Las Casas の獻策は疑もなく黒人がアメリカ土人よりもよりよく鑛山に於ける勞働に堪え得ることを根據としてなされた、即ち鑛山勞働は急速に後者の多くを使滅しつゝあつたのである。彼は時々するこの口實の下に凡ゆる批難に對應した、然しながら、土人達のために示せる彼の努力は賞讃に値するとは言へ、彼は道德律の侵害若くは輕視に對する責を負はなければならぬ。彼の獻策は不幸にして採用されなかつた。「Charles はその一寵臣に、Haiti, Cuba, Jamaica 及び Porto Rico へ年々四千人の黒人を供給することに關する一種の排他的特權を含める特許狀を下附した」と Robertson は言つてゐる。「その寵臣は彼の特許狀を二五、〇〇〇デユカツツで Genoa の商人たちに賣つた」。これらの商人たちはポルトガル人から奴隷を得、かくてアフリカとアメリカとの間の奴隷貿易が初めて組織化せられたのである。

の嚆矢である。黒奴の數はその後輸入に依つて——勿論初め徐徐にはあつたが——絶えず増加せしめられ、農業勞働は益奴隷に依つてなされるに至り、かくて一七九〇年には Virginia 洲には二〇〇、〇〇〇の黒奴がゐるやうになつた。

英國のアフリカ貿易は永い間特許會社の手に在つたが、William の Mary の治世の第一年の法令に依つて、それは自由となり凡ての臣民に開放せらるるに至つた。それは言へ African Company が尙ほ存在し、時々議會の特許を得た。Dreucht 條約に依り、會てオランダから佛國へ移つたところのイスパニアの植民地へ年々四八〇〇の黒奴を供給するの契約が英國に委譲せられ、英國の會社は一七一三年の五月一日から三十年の間獨占權を得る筈であつた。然るに該契約は一七三九年に終結し、その時一方に於ては英國の商人たちの不服が著しく高まり、遂に Philip 五世は該條約の廢棄を宣言し、Sir Robert Walpole は輿論の趨くところ遂にイスパニアと戦端を開くことを餘儀なくされた。一六八〇年から一七〇〇年までの間に約一四〇、〇〇〇は African Company に依り、一六〇、〇〇〇餘は個人企業家たちに依り、總計約三〇〇、〇〇〇の黒奴が輸出せられた。一七〇〇年から一七八六年の末までには、一六五五年以來英國の領土になつてゐた Jamaica だけ一六、一〇〇の黒奴が輸送された。Bryan Edwards は一六八〇年から一七八六年までにアメリカ及び西印度の英領植民地へ輸入された黒奴の總數を二、一三〇、〇〇〇、從つて年年の平均數を二〇、〇九五と計上した。英國の奴隷貿易はア

の嚆矢である。黒奴の數はその後輸入に依つて——勿論初め徐徐にはあつたが——絶えず増加せしめられ、農業勞働は益奴隷に依つてなされるに至り、かくて一七九〇年には Virginia 洲には二〇〇、〇〇〇の黒奴がゐるやうになつた。

メリカ獨立戰爭の直前に於てその最高頂に達した。それは當時主として Liverpool からなされたが、併し又 London, Bristol, Lancaster 等からもなされた。これらの諸港から航行してゐた奴隸搭載船の總數は一九二隻で、四七、一四六人の黒奴を輸送するだけの設備がなされてゐた。戰爭中はその數は著しく減少したが、戰が済むと貿易は直ぐ又復活した。Edwards が書いた時（一七九二年）には、アフリカの海岸にある歐洲人の代理店の數は四〇であつた、これらの中の十四は英國のもので、三はフランスの、十五はオランダの、四はポストガルの、四はデンマルクのものであつた。該事業に携れる歐洲諸國の貿易業者に依り、一七九〇年頃にアフリカ大陸から年々輸出された數の最も正確に近いものは次の如くである、即ち英國人に依り三八、〇〇〇、佛國人に依り二〇、〇〇〇、蘭人に依り四〇、〇〇〇、デンマルク人に依り二、〇〇〇、ポルトガル人に依り一〇、〇〇〇、合計七四、〇〇〇」であつた。かくて當時の奴隸貿易の半以上は英人の手に在つた。

奴隸貿易の影響 奴隸を得んとしてなされる人間狩はヨーロッパ諸國の植民地の需要に依り著しく戟勢せられた。土蕃の酋長たちは掠擄に従事し、時には彼ら自身の部族をすら捕へて西歐の商品と交換すべき奴隸を獲んと努めた。彼らは屢夜中村落に放火して逃げ出さんとする村民を捉へた。かくの如くアフリカの蠻地を震撼せしめつゝあつたこの總てはこれら諸外國の刺戟に依り益増加され且つ強められたアフリカを出帆するまでに死亡した奴隸を除き一二% 二分の一は西印度諸島への渡航の途に於て失はれ Jamaica に於ては四%

二分の一が渡航前或は航海中に死亡し、三分の一以上が乾燥病にかかつて死亡した。かくてアフリカから輸送された黒奴各百人につき十七人は約九週間に死し、殘存して輸送先で相當に働ける者は五十人を出でぬ有様であつた。植民地に於ける彼らのその後の生活状態はその數の増加に適するものではなかつた Jamaica に於ては、一六九〇年に四〇、〇〇〇人居り、同年から一八二〇年までに八〇〇、〇〇〇人居り、同年から一八二〇年までに一八二〇年には同島に僅かに三四〇、〇〇〇人居りしかるなかつた。人口の自然的増殖を妨げた一原因は男女の數の不均等であつた。Jamaica だけで一七八九年に三〇、〇〇〇人も男性が超過してゐた。

奴隸貿易反對運動

英國 奴隸貿易の本質が一般に理解され初むるや、英國に於ける最も善良なる人人は總てこれに反對した。これを公然批難した人々の中には

- Baxter, Sir Richard Steele, Pope Thomson, Shenstone, Dyer, Cowper, Thomas Day (Sandford and Merton の著者), Sterne, Warburton, Hutcheson, Beattie, John Wesley, Whitfield, Adam Smith, Millar, Robertson, Dr. Johnson, Paley, Gregory, Gilbert Wakefield, Bishop Porteus, Dean Tucker (Clarkson の著書に録されてゐる主なもの) 等がある。
- 當時の檢事長及び大狀師、York 及び Talbot に依り一七二九年に與へられた一判定の當然の結果として、英國及び Ireland に於ける奴隸制度の合法性に關する問題が持ち上つた。該判定の結果として、奴隸は西印度からこれらの國に來ることに依つては自由と

なることなく、且つその主人に依り植民地に戻ること餘儀なくせられたのであつた。裁判長 Holt はこれに反對の意見を述べた、かくて事件は黒人 Somerset の場合に於て Granville Sharp に依り解決せられた。奴隸が足一たび英本國の地を踏むや否や直ちに自由となることには、一七七二年六月二十二日に Mansfield 卿に依り、全裁判官の名に於て決定せられた。奴隸貿易が神の律法に人類の權利に反する」この動議が一七七六年に、"Observations on Man" の著者の息 David Hartley に依つて下院に提出せられた然し該問題に關してなされた。この最初の提議は成功しなかつた。

奴隸貿易に反對して團體的實際運動を起した英國最初の人人はかのクエーカー教徒であつて、彼らは既に一六七一年にその教祖 George Fox から出でたる思想を捧持してゐたのであつた。一七二七年に、彼らは奴隸貿易の實行が讃むべからざるものなるは勿論、正に許すべからざるものなることを宣言した、次で一七六一年には、それに携はれり認められたるものは悉く彼らの社會から排除し、該制度反對の檄文をその同志及び一般公衆に配付した。一七八三年には、西印度諸島に於ける黒奴の救済を釋放を期し、且つアフリカ海岸に於ける奴隸貿易を阻止せんとする團體が彼らの間に形成せられた。蓋しこの種の目的のために英國に於て組織せられたる最初の團體である。

アメリカに於けるクエーカー教徒の同問題に關する運動は、英國に於けるよりも更に夙くより初まつてゐた。Pennsylvania 洲の同教徒は一六九六年に、奴隸貿易に反對すべき

こゝを彼ら自身の間に宣揚した。一七五四年に、彼らはその同胞に向つて、如何なる方法に於てもそれを助長するが如きこゝには反對すべしとの諫言を發表した。一七七四年には該事業に關係せる總ての者を更に一七七六年にはその所有奴隸の解放を肯んぜざる總ての者をその仲間から除外した。他のアメリカ諸洲のクエーカー教徒は何れも Pennsylvania 洲の同教徒の指揮に従つたアメリカのクエーカー教徒中、アフリカ土人のため最も熱心且つ不撓に活動したる人物に John Woolman (1720—1773) 及び Anthony Benezet (1713—1784) がある。後者は Nante 勅令の廢止に依り佛國から放逐せられた一ユグノーの息であつた。前者は彼の努力を主としてアメリカ内に限り、又事實上その同教徒に對してのみ力を盡したが、後者は該制度廢止のための世界的宣傳に力を致した。一七七四年 James Pemberton 及び Dr. Benjamin Rush に依つて Pennsylvania 協會が組織せられ、一七八七年(戰後) 同協會は Franklin の統轄の下に更に一層廣大なる基礎の上に再建せられた。他の同様の諸團體も、殆んゞ時を同じうして北米合衆國の各地に續建設せられた。

第二の重要な運動が英國に起つた。奴隸貿易の有力な反對者であつた Cambridge 大學副總長 Peckard 博士は、一七八五年にラテン語の懸賞論文の論題として "An licet invitus in servitium dare" なる問題を提供した。Thomas Clarkson はその一等賞を獲得し、後その論文を英譯し更に敷衍して翌一七八六年に "Essay on the Slavery and Commerce of the Human Species" なる書名で出

版した。その出版に際し彼は既に該問題に深き興味を有せる多くの人人と相識するに至つたが、これらの人人の中に、Granville Sharp, William Dilwyn (生來のアメリカ人で、Benezet をよく識つてゐた)、Rev. James Ramsay 等があつた。Ramsay は十九年の永年 St. Christopher に住んでゐて、「英領植民地に於ける黒奴の待遇及び改變に就て——An Essay on the Treatment and Conversion of the African Slaves in the British Sugar Colonies」なる論文を公にした人である。Clarkson の件の著書の普及は彼をしてその影響を受けたる多くの人人と接觸せしむるに至り、殊に William Wilberforce の深き交りをつたへしむるに至つた。一七八七年五月十二日には、Granville Sharp の統轄の下に奴隷貿易の廢止を目的とする委員會が成立した。彼らの努力を誘導し支持せる主たる原動力がキリスト教的信念及び原則であつたことは疑なきところである。最も熱心且つ不屈の努力は事實の調査、資料の蒐集、支委員會の形成及び請願の取扱、報道及び議會に於て事件を討議する人人の擁護等の目的で結合せる人人に依りなされた。元からの同志の外に、後になつて加はつた有名な人人もある、即ち Josiah Wedgwood, Bennet Langton, Zachary Macaulay, Henry Brougham 等がその主なるものである。

議會に提出されたる種種の請願の結果、一七八八年に、奴隷貿易の調査のため樞密院の委員が國王に依つて任命せられた、又 Pitt は下院は次の會期に該問題を考慮に入るべしとの動議を提出した。該問題に關する全院委員會設置を主張せる Wilberforce の最初の動議

は一七八九年三月十九日に提出せられた、この委員會は同年五月十二日まで事業を續けた Wilberforce は立派な一場の演説を試みた後、奴隷貿易の將來に對する爾後の運動の根柢たらしめんとせる十二箇條の決議を卓上に置いた。これらの討議は次期議會に延期せられ、一七九〇年から一七九一年にかけて該決議に關する報告が採擇せられた。漸くにして一七九一年四月十八日に爾後西印度に於ける英國の植民地へ奴隷を輸入することを禁すべき法律を制定すべしとの動議が提出せられた。

不幸にして該動議は St. Domingo, Martinique 及び Dominica の英領諸島に於ける暴動のため評判を害ひ、八十八票對百六十三票で破れた。然しアフリカ西海岸地方の植民及び同地方の奴隷貿易の防遏を目的として Sierra Leone Company を設立する、この法律上の認許が與へられた。當時そがアフリカ文化開發の中心地たるべしと期待されてゐたのであつた、だがこの期待は充たされなかつた。一七九二年三月二日 Wilberforce は、再び、奴隷貿易を廢止すべしとの動議を提出した、この動議は漸次的廢止と云ふことに修正せられ、遂に一七九六年一月一日限り奴隷の賣買を止めるべきことに決定した。同一の動議が上院に提出せられた際、同院委員會に依る資料調査の餘裕を與へるため翌年の會期に延期せられた。奴隷貿易中英國の商人が他國の植民地へ奴隷を供給することだけを廢止すべしとの下院に於ける法案は翌年第三讀會まで行つて否決せられた、そは一七九四年に更めて下院に提出せられ、それを通過したが上院で破れた。その後數年に互り議會に於ける廢止論者に依り種種の努力がなされたが、然

し殆んぞ成功しなかつた。然し一八〇六年に Granville 卿の Fox が勢力を得るに至り、奴隷を英國から外國へ供給することを禁じ、且つ戰爭の結果英國軍が贏ち得たる植民地への奴隷の輸入を禁ずべしとの法案が兩院を通過した。同年の六月十日には、Fox が「適當と思はるる方法を以て適當と思はるる時期にアフリカの奴隷の廢止に對し有効なる處置を取るべし」この決議案を提出して大多數の賛成を得た。同一の決議案は上院でも成功した。その後奴隷貿易に新造船を用ひることを禁ずべき法案が兩院を通過した。最後に、一八〇七年に奴隷貿易の廢止を規定せる法律案が Granville 卿に依つて上院に提出せられ、大多數で通過し後下院に送られ(下院では Ho-wick 卿に依つて提議せられた)修正の上下院を通過し、三月二十五日に批准を受けた。

同法案は一八〇七年五月一日以後英國の領土内の島の港からの島の船も奴隷貿易のために出帆せざるやう、又一八〇八年三月一日以後は全然奴隷を植民地に上陸せしめざるやう制定せられた。一八〇七年には奴隷貿易業者の監視及び若し可能ならば、他の歐洲諸國民の奴隷貿易の廢止をも要求することを主たる目的とするアフリカ協會が設けられた。そは又黒人種の開發及びアフリカ大陸に關する知識普及の機關として用ひられた。一八〇七年の法律は常習的に違反された、貿易業者達が、若し三回の中一回航海に成功したならば、彼らはその損失を償つて餘りあることを知つてゐるからである。かくの如き状態が該貿易が單に罰金刑を伴ふに過ぎざる禁制である間繼續するに相違ないことは明か

であつた。従つて一八一一年に Brougham は該貿易を重罪として流刑を以て罰せらるべきものとすべしとの案を議會に提出した。後年それを死罪にすべしとの他の法律案が通過したが、然しそは程なく廢止された。一八一一年の法律は効果を示し、英國の領地の關する限り奴隷貿易をして遂に終末を告ぐるに至らしめた。Mauritius に於て尙ほ一時それが行はれたのは事實である、この島は一八一〇年即ち廢止後三年目に佛國から譲り受けたものであつて、アフリカ海岸に近接してゐるため監視の眼を免るべき特殊の便宜を有してゐたのである。然しこの島も程なく大勢に従ふの餘儀なきに至つた。

フランス フランスの奴隷貿易が廢止されるまでには、幾多の鬭争と無秩序の状態が續いた。St. Domingo の西部は義勇士イスパニアに屬してゐたが、實際には佛國政府から公認せられ擁護せられたる海賊に依つて占領せられて居り、遂には一六九七年の Ryerdyk 條約の結果フランスに讓渡せられた。一七九一年までにはこの植民地に輸入された黒奴の數は極めて多く、同地に於ける黒人の白人に對する割合が六對一に達する程であつた。一七九一年に、佛領 St. Domingo には四八、〇〇〇の黒人、二四、〇〇〇の黒白混血種、漸く三〇、〇〇〇に過ぎたる白人が居つた。黒人法 (Code Noir) 一六八五年ルイ十四世の下に定められた) の名で知られてゐる植民地奴隷制度に關する佛國の法律は、その精神に於ては人道主義的なものであつた。然しその規定は常に植民業者たちに依つて無視せられ、自由混血人ですら著しく悲惨な状態の下に働き、且つ甚しく蔑視されてゐた。當に奴

# 學 內 報

## フーシェ博士歡迎會

日佛交換教授として佛國政府から派遣せられたパリ大學教授アルフレッド・フーシェ博士(Dr. Alfred Foucher)の來阪を機として、本學では去月九日大學の名に於て同氏を歓迎した。即ち同日午前十時、宮島、小泉兩教授が奈良附近の觀遊を終へて來阪せる博士を大軌電車終點に迎へて



フーシェ博士

先づ天王寺に詣つて同寺の特別の厚意に依り扇面寫經を初め普通には容易に見ることを許されぬ特別寶物類を觀、流石専門家だけに大いに興するところがあつた。次で程遠からぬ茶臼山の雲水にて佛敎に因める精進料理の晝食を俱にし、後大阪城の見物を終つて文樂座を訪ふ。折柄開演中の「鏡山」を觀て大いに満足し興趣盡きずして去るを惜しみつつ、夕刻大阪俱樂部に於ける本學主催の茶話會に臨んだ。

右茶話會には偶行を共にせる東京帝國大學福井教授も出席、博士を中心に本學諸教授との間に古代美術に關する學談が交され、博士は母國に於ける自分の大學ですら味ひ得なかつた好い氣分を味つたミ満悅の辭を洩し、午後十時頃漸く辭去した。因に左記は博士が記念

のため本學の畫帳に記し置かれたものである。

Je ne connais pas de pays où l'on soit mieux reçu qu'au Japon. Comme pour tant d'autres pratiques courantes de la vie, ce peuple raffiné a élevé l'hospitalité à la hauteur d'un art. Nous venons d'en faire à Osaka la précieuse expérience et nous en remercions cordialement mes collègues de l'Université de Kansai. Mais quand cet art vient s'ajouter au charme prenant de la nature, comment pourrait-on échapper à l'enchantement du Japon.

Osaka, le 9

avril 1926.

A. Foucher,

Université de Paris.

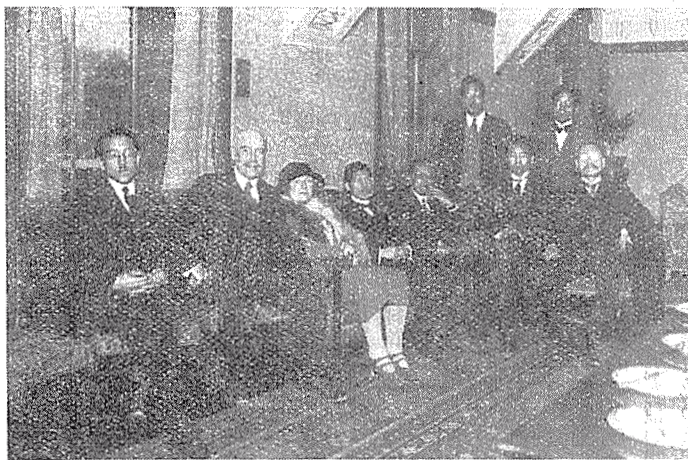
右抄譯

余は人を歡待するの好き日本に於ける如きを知らず、他の凡ゆる日常生活に於ても然れる如く、この洗練されたる人人は特に人を遇するに藝術的高尚さを以てす。吾人はこの點に關する貴重な經驗を大阪に於て得たり、ここに關西大學の我僚友諸氏に衷心謝意を表する所以にこそ。實にこの藝術がその天然に基く魅力ミ合致せんミする時、誰か能く日本の幻惑より脱せんミして脱し得るものぞ。

一九二六年四月九日

パリ大學教授 ア・フーシェ  
フーシェ氏の略歴 アルフレッド・フーシェ

氏は一八六五年オリアン市に生れ、パリ高等師範學校の出身にして文學博士の學位を有す現にパリ大學高等研究院宗教研究學科指導員にして同時に同學文學部教授の職に在る。會てフランス極東學院長であつたことがあり又パリ・アジア協會評議員等に席を有してゐる。博士はパリ高等師範學校入學以來印度研究に



フーシェ博士歡迎茶話會

志し、印度(一八九五年——一八九七年)から更に印度支那(一九〇〇年——一九〇一年及び一九〇五年——一九〇七年)及びジャヴァ(一九〇七年)に於ける學術研究の命を受け、これによつて印度及びマレーに於ける佛敎圖像學竝に佛敎美術に關する著述の材料を齎した。

儀軌集(Sadhana-Mata)梵本に近似せるネパール編纂の二寫本中にある密書に依り佛敎圖像學の科學的根柢を得、更にベンゴル及びマガダに於ける數多の中世紀諸像の鑑識を確立するを得て「印度佛敎圖像學研究」(Essai sur l'Iconographie Bouddhique de l'Inde)二卷中にこれらの結果を收めた。ペシヤヴァール地方の探檢、印度諸博物館の研究及びその後歐米に於ける印度蒐集物の研究に依りて後者を補ひ、以てその主著「ガンダーランの希臘佛敎美術、印度及び極東佛敎美術に於ける古代希臘の影響の諸起源に關する研究」(Art Grecs-bouddhique dans Gandhara—essai sur les origines de l'influence classique dans l'art bouddhique de l'Inde et de l'Extreme-Orient)二卷の資料を獲るに至つた。他方博士はパンチャブ中印度ジャヴァの遺物につき數多執筆の機を得、その一部はトーマス兩氏(Miss L., Mr. F.W. Thomas)に依り英文に譯出せられ、一括して「佛敎美術の初頭竝に印度及び中央アジア考古學論纂」(Beginning of Buddhist Art and Other Essays in Indian and Central Asian Archaeology)として刊行した。

一九一八年九月の末博士は考古探檢委員會の(Archaeological Survey)招に應じて再び印度に趣き、サンチーの彫刻、アジヤンターの壁畫の鑑別及びその出版に従事した。一九一九年にはカシュミール及びシキムに入り、一九二二年ペルシアを経ての歸路アフガニスタンに入國することを得、同國王政府の承認を得てカブル及び古バクトリア地方最初の考古學的探檢を遂行した(一九二二年——一九二五年)。



夫人も亦一九一九年以來行を共にしたが、昨年十一月の初めカプールを辭去して歸佛したその途博士は日本に於ける佛敎美術の遺物研究を慾して來朝せらるるこゝこなり、ここに於て佛國政府は東京委員會の同意を得、同氏の日本滞在中日佛會館學監を囑するこゝこなつた。

### 學部及大學豫科始業式大學豫科入學式並宣誓式舉行

本學學部及び大學豫科始業式並に大學豫科新入學生の入學式及び宣誓式は去月十九日午前十一時から千里山學舎講堂に於て舉行せられた。

定刻、松本學長、宮島事務理事其他教職員並びに在學生及び新入學生一同出席、學歌合唱裡に開式し、松本學長は歐米及び本邦に於ける大學の歴史、現在の狀態を叙し、現在大學にあるものの覺悟を述べて、式辭に代へ、次いで在學生總代の新入學生歡迎の辭、新入學生總代の答辭があり、學部新入學生總代及び大學豫科新入學生總代の宣誓文朗讀並に新入學生一同の宣誓があつて、再び學歌合唱裡に式を閉じた。式後列席教職員一同畫食の卓を共にし、新入學生一同記念の撮影をなした。因に學部及び大學豫科新入學生の宣誓文を左に掲載する。

#### 宣誓文(一)

#### 宣誓

關西大學學部ニ進ムニ當リ更ニ覺憲遵守ノ念ヲ新ニ益研鑽修養ニ努メ以テ本學ノ期待ニ副ハンコトヲ誓フ依テ爰ニ姓名ヲ自署ス

大正十五年四月十九日

關西大學學部第一學年  
宣誓文(二)

#### 宣誓

關西大學大學豫科ニ入ルニ當リ謹テ本學建學ノ趣旨ヲ體シ以テ學生ノ本分ヲ全ウセンコトヲ誓フ依テ爰ニ姓名ヲ自署ス

大正十五年四月十九日

#### 關西大學大學豫科第一學年

尚ほ同日午後五時から福島學舎に於いて松本學長は専門部新入學生一同を第一講堂に集め一場の訓辭を試みた。

#### 千里山親睦會開催

本學專任教職員有志から成る千里山親睦會では本年度春季例會を去月十八日午後五時から市内北濱風月堂樓上に於て開催した。會員の出席するもの三十餘名、その外山岡總理事、松本學長及び近く渡歐の途に着く筈であつた戸田留學生も特に招かれて臨席の上定刻開宴デザート・コースに入りて幹事櫻井教授の挨拶、松本學長及び戸田留學生の挨拶等あり、後別室に轉じて各自歡談を交へ午後九時頃散會した。因に幹事の任期満了につき前幹事の指名推薦、全會員一致賛成の結果水谷教授、松田助教の兩氏がこれに當るこゝこなつた

#### 千里山學舎本部及び圖書館の建設豫定

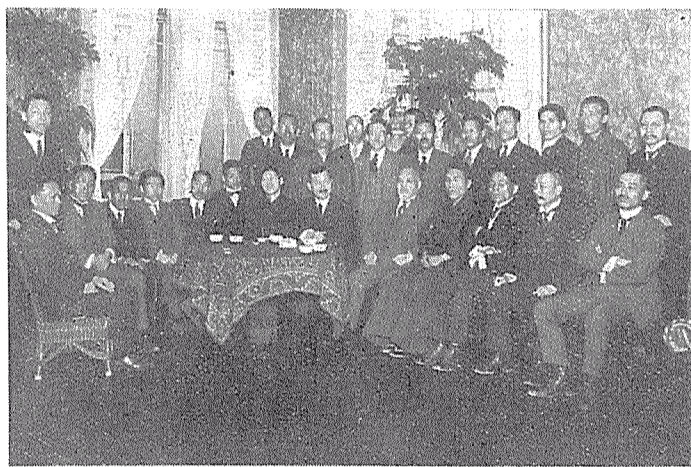
豫て計劃中であつた本學千里山學舎の大學本部及び圖書館の新設につき、這般漸く機熟し既に設計圖も出來したので、來る十月頃愈工を起すこゝこなつた。

#### 千里山學舎門柵起工

本學千里山學舎の大運動場は既に殆ど完成に

近く、大學本部及び圖書館の建設も違からず工を起すこゝこになつてゐるが、更に大學通りの突當りから親和坂下り口を連ぬる大門柵を設くるこゝこなり、本月初旬工事に着手、近く完成する筈である。

#### 織田顧問の渡歐



千里山親睦會春季例會

歸朝中であつた本學顧問、國際司法裁判所正判事織田萬博士は去月二十九日午後三時神戸解纜北野丸にて任地に赴かれた。

#### 戸田留學生出發

前號所報今回法理學並びに經濟學研究の爲め歐米各國に留學を命ぜられた戸田省三氏は先

づ最初ロンドンに向ふ豫定で去る四月二十九日午後三時神戸出帆の郵船北野丸で出發するこゝこになつた。當日午前九時半同氏は大學教職員有志、諸先輩、學友等多數の見送りを受けて大阪驛を出發し、同十時半神戸港着、北野丸甲板に於いて見送の人人に記念の撮影を終へ、一同は更に同君の前途を祝福する意味で本學學歌を合唱、後暫く船室に入つて名残りの物語りを交した。やがて定刻船は人人の「萬歲」に送られて突堤を離れ、打振る帽子に暫しの名残は惜しめ燃ゆる希望を抱いて氏は華かな鹿島立ちをした。因に同氏宛書狀は當分左のアドレスで届く筈である。

SHOZO TODA, Esq.,  
c/o The Japanese Embassy,  
10, Grosvenor Square,  
London, W.,  
ENGLAND.

#### 第二商業學校新教諭囑任

本學附屬第二商業學校では、今回新に左記諸氏を教諭に囑任した。

- 作 文 稻葉 最勝  
北學、幾何 理學士 橋本 太郎  
商事要項 法學士 福西新右衛門  
英 語 法學士 神保 繁雄  
右之中福西、神保の兩氏は何れも本年三月本學法文學部法律學科を卒業した新進の士であつて、其後熱心に教務に従ひ、母校の事業を助けて居る。

#### 第二商業學校學級擔任教諭

#### 級長副級長並學友會委員

本學附屬第二商業學校本學年度學級擔任教諭

正副級長並に學友會生徒委員は左の通り決定した。

學級擔任教諭

- 第三學年 A組 森川 太郎 B組 山崎 敬義
第二學年 A組 中村 良之助 B組 福西新右衛門
同 C組 神保 敏雄
第一學年 A組 小俣 信雄 B組 瀧口 猶興
同 C組 岡田 利雄

級長及び副級長

- 第三學年 A組 矢谷幾右衛門 上田 桑吉
同 B組 永海 小一郎 丹野 辰雄
第二學年 A組 土肥 建次 後藤 貞光
同 B組 柴田 徹士 山田 傳太郎
同 C組 山名 哲秀 善如 善男

學友會生徒委員

- 第三學年 A組 河村 秀信、村上 清志、引削 仁正
同 B組 松元 芳雄、永海 小一郎、町高 綱
第二學年 A組 三井 常一、向島 文策、中北 貢
同 B組 首藤 章、田原 兼一、松本 和三郎
同 C組 出田 鶴雄、白井 義式、安藤 大輔

木村擴張後援會長の阪和

鐵道株式會社社長就任

本學擴張後援會長木村清氏は今回新設阪和鐵道株式會社の取締役兼社長に就任した。

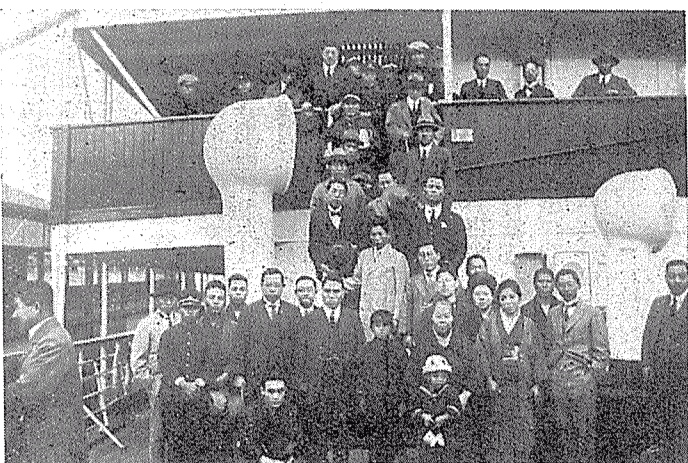
佐々教授學外講演

本學佐々教授は大阪市市岡青年團の聘に應じて去る四月二十日午後七時から同團員の爲めに市岡青年會館に於いて「獨逸の復興的努力」

現代法律の精神」なる題下に約二時間に亘つて講演した。

大學豫科入學試驗問題

前號所報本學年度大學豫科入學試驗は去月七日から九日まで千里山學舎に於いて施行せられたが、該試驗問題の主なるものは次の通りである。



市岡留學生の出陣 北野九甲板にて

英文和譯(二時間)

- 1. In order that knowledge may be used as a tool in investigations and in the solution of problems, it must be so used constantly during the period of its acquisition.
2. The great use of a school education is not so much to teach you things as to teach you the art of learning; so that you may

apply that art in after life for yourselves, on any matter to which you choose to turn your mind.

和文英譯(二時間)

環境の人生に及ぼす影響が如何に大であるかは今更言ふ迄もなからず殊に人格陶冶、眞理研究の場所なる大學の所在地が環境その眞實を得るの爲に極めて重要である。

英語書取(三十分)

Man has a marvellous faculty which enable his soul, as it were, to go out of his body, to travel abroad, to enter into other people's bodies, to see through their eyes, and to partake of their joys and sorrows. This power is called sympathy, and this sympathy is in proportion to the degree of humanity in the man.

日本作文(二時間)

朝日に匂ふ山櫻文體隨筆)
朝日に匂ふ山櫻文體隨筆)
朝日に匂ふ山櫻文體隨筆)
朝日に匂ふ山櫻文體隨筆)

代數(二時間)

- 1) 次ノ方程式ヲ解ケ (a-x)^5 + (x-b)^5 = (a-b)^5
2) xヲ含ムル三次整式アリ、之ヲxニテ除スルバ1残り其商ヲ又xニテ除スルバ1残り其又商ヲxニテ除スルバ1残りト云フ。元ノ式ハ如何ナル式ナルカ。又x=2,3,4ナルトキ此ノ如キ條件ニ適スル整数ヲ求ム
3) 次ノ四式ヨリx,y,z及vヲ消去セヨ
4) 或電報會社ニテ乗車券1枚10錢ナル時毎日本均n枚ヲ發賣ス。今一枚ニ付d割ノ値上ヲスル

ト發賣數ハ20枚減スルトイフ會社ノ收入ヲ出
來ルガテ多クスルニハ1枚の代價ト何程ニスベ
キカ

商業算術(二時間)

- 1) 一石¥48. = 賣ルニテ損減 5%。貸付金10%ヲ見
積ルニ向20%ノ利益アルベシト云フ。一石ノ仕
入値幾何程トナルカ
2) 大阪A商ハ知育B商ヨリ\$768.ノ借アリ。ヨリ
テB商ハ40日拂ノ利付手形ヲ提出シタリトセバ
A商ノ支拂高何程トナルカ
\* 知育ノ金利 年 4.2%
日米郵便日數 20日
知育宛電信相場(豫想) \$ 45.

次の當座預金ノ利息ヲ計算セヨ

預リニハ預リ當日ヨリ拂戻ノ前日迄殘高 ¥100
未滿ヲ切捨テテ日歩1錢貸越ニハ貸越ノ當日ヨ
リ展入ノ當日迄殘高 ¥1. 未滿ヲ切捨テテ日歩2
錢5厘ノ利息ヲ附スルモノトス。

Table with columns for '決算日' (Settlement Date) and '利息' (Interest). Rows include '1/4 預リ', '1/20 同', '1/20 同', '1/25 引出', '1/25 預リ', '1/6 引出', '1/19 同', '1/20 預リ'.

(商業學校出貞章ニ限る)

第四頁(4)續へ

やればキリスト教はユダヤ國內に於ける一宗教であつて、後世に發達せる如き世界的宗教ではなかつたのである。後キリストが改宗して熱心なるキリスト教徒となり、大活動になすに及び漸次世界的宗教として發達する様になつたのである。(宗)

# 校友の面影

日本商工株式  
會社相談役  
布井良太郎氏

明治三十九年度法律學科出身

氣持良く晴れた春の一日、筆者は氏を西道頓堀通四丁目の私宅に訪れた。

「別に御話するやうなことも有りませんが」  
と、その温容に謙讓な微笑を湛えつつ氏は次の如く語つた。

「學校も随分發展しましたね。私の在學時代と言つても、さうですね、もう二十年も前の事です。その頃は未だ今のちやうき江戸橋のところに學校が在りました校舎も貧弱だつたし、運動場なごも無かつたものですから、前の街路に出て、ボール投げなごをやつたものでした。生徒數です、さうですね、七八百位は居たやうです。その頃も然し、先生には相當に豪い方が多くて、生徒も一生懸命に勉強したものでした。私が卒業した年だつたと思ひますが、今の福島に移轉したのです。その青年時代を懐しいものやうに追憶し



布井青年の如き明る  
い元氣の溢れてゐるのもその性格の然らしむるころであらうか。家業は米穀問屋で、氏はこの家業を

「主義と言へば少し堅苦しい、まあ心懸け言ふやうなものとしては、性格的に、餘り人と争ひたくないこです。だから刻命に金儲けなごに腐心するやうなごも、政界に乘出して華華しくやつて見やうなごは思ひません。そんなですから以前は日本商工株式會社の社長をしてゐたごもありましたが、今は手をひいて、ただ僅に相談役をしてゐるのみです。その外に、これと言つて公職にもついてゐません。」と、飽くまで氏は温厚な君子肌の人である。

氏は明治十八年二月八日大阪に生れ、天王寺中學を経て、本學に入り、明治三十九年法律科卒業、直ちに一年志願兵として軍籍に入り陸軍三等主計になつた。本年四十二歳のごころであるが、一見布井青年の如き明るい元氣の溢れてゐるのもその性格の然らしむるころであらうか。家業は米穀問屋で、氏はこの家業を

繼ぎ、傍ら有志ご前記の日本商工株式會社を興し、親ら社長として、専ら紡績機械、紡績木管、次いで綿花等の輸出入に従事し、社の基礎確立するに及び職を退き、今はその相談役として悠悠自適の生活を送つてゐる。趣味としては、狂言、常盤津一中節等で就中氏の狂言は、茂山良一先生の高弟として斯道に聞えてゐるご言ふごころである。濃厚、圓滿な氏の風格の中に、飄逸洒脫なる文人肌の現はれてゐるのも、さこそご點頭かれる。煤煙ご黄塵にまみれて、營利のみに齷齪して追

はれてゐる人の多い、この商業の都に而も生つ粹の大阪人ご生れて、氏の如き清廉な風格な所有者を校友の中に發見するごころは、筆者の最も愉快するごころである。快く拭掃された氏の居室も、そぞろに主じの風格を偲ばしめて、飽くまで清雅な氣韻をたたえてゐた。氏は本學野村幹事長ご同窓生にて本學の向上ご發展には深く留意して居るごころで、晩近本學學生の品格の著しく向上した事を深く欣んでゐた。

## 校友彙報

### 親交俱樂部春季例會

大正十年度の本學卒業生諸氏から成る親交俱樂部では去月十六日夕より大阪市南區鹽町二丁目大市に於て、春季例會を開き、山中治三郎、竹之内勇、山田一太郎、毛利清太郎、丹二良、宮本政藏、藤井清秀、尾川隆二、新貝康男、田中英一その他の諸氏出席し極めて盛會であつた。同會では十年度本學卒業生諸氏の入會を歓迎してゐる。

- 一、會費を要せず
- 二、春秋二回に總會開催
- 三、入會希望者は大阪市天王寺區堂ヶ芝町五五、山中治三郎氏宛通信の事

### 福岡支部第十七回春季例會

本學校友會福岡支部にては、去月十七日午後六時より春季例會を門司にて開いた。會場は金山の豫定であつたが、俄に菊の家に變更した校友門司銀行事務本木龜太郎氏は會場その

他に専ら斡旋した。聽て開會するや、辯護士池田重吉氏は、新會員戸畑警察署長下井信三氏の紹介及會員本宮久吉氏の日本スリート會社東京支店長榮轉の事その他會務の報告を爲したる後、直ちに宴に移る。名にしをふ門司第一の料亭にて席に侍する美妓に申分の有らう筈もなく、孰れも十二分に歡を盡して散會したのは午後十一時過であつた。因に現在福岡縣下在住の校友は三十一名の由。(池田重吉氏報)

## 校友動靜

濱松 參氏(大七商) 岐阜縣大野郡高町高等女學校に轉勤。  
 阿久津淺之助氏(大 四 法) 東京地方裁判所檢事の職を辭し今回東京市麴町區有樂町三丁目一にて辯護士開業。  
 矢野 國 臣氏(大 一 法) 今回大阪北陽商業學校教諭に就任。  
 梅 田 茂氏(大 一 二 經) 従來大阪電報通信社に勤務中なりしが今回同社を辭して名古屋新聞社主事に就任。  
 霜村 盛 郷氏(大 一 三 商) 株式會社岸本商店を辭して今回關西大學學報局に勤務。  
 井口 圭 司氏(大 九 法) 去る三月十七日兵庫縣多紀郡後川村の土井久野女ご華燭の典を擧げた。  
 鴨井 辰 夫氏(大 一 四 專商) 今回大阪毎日新聞社に入社。  
 森田 捨次郎氏(大 一 四 大商) 今回北區天滿森辰之助氏令嬢督子氏ご養子縁組した。

## 校友住所移動

前原 昇(大 一 五 專商) 鳥取歩兵第四十聯隊第十

新田 武夫(天一三經)

一中隊一年志願兵  
東成區東小橋愛國貯金銀行鶴橋支店

滿田 清四郎(天九法)

松山市松山地方裁判所

河面 三一(天一二經)

Mr. S. KAMO,  
c/o The Japanese Methodist Episcopal Church,  
323, W. 108th Str.,  
New York City,  
U.S.A.

倉永 勇夫(天四大法)

西成區玉出町八〇三

三木 盛 男(天四六商)

神戸市中山手通七ノ四九  
三菱銀行社宅内

山岸 源一(天一四專經)

東區南久太郎町一丁目菱三商會内

井口 圭司(天九法)

兵庫縣武庫郡瓦木村高木高松六一ノ三

小角 太一(天一〇商)

天王寺區樵寺町八五

長谷川 天地(天六法)

北區堂島濱通一丁目八五  
備前法律事務所

武田 木曜(天三法)

福岡市外奈多

本田 捨松(天一二法)

東京市麴町區内幸町一丁目三、八千代生命保險株式會社

納所 孝夫(天四專法)

大阪高等商業學校研究科  
東淀川區中津町二五

鴨井 辰夫(天一四專商)

姫路市朝日町鐵道官舎第四號、三龜五太郎方

好田 磯二(天一四專商)

北區堂島濱通三丁目大阪  
醫科大學病院惠濟團事務所

油谷 英一(天一五專法)

京都市外深草町七瀬川喜水丘住宅

佐津間 秋夫(天一三經)

校友改姓名

大一四大商 森田捨次郎 (舊) 森捨次郎 (新)

千里山俳壇 朝冷選

□ 專文 杉本信雄

下蒨に猪の足趾見ゆる哉  
お玉杓子の水に日光動きけり  
畑打の一人は遠く離れるる  
去ぬ雁や風の出てきし夕汀  
下草を鋤きるる桃の日和哉

□ 法文 津田道之助

石礫に落ちつくしたる椿哉  
垣木の芽テニスコートの二三三人  
駄馬の背にゆられて春の野に出でぬ  
春泥に人を迎えて慌し  
春雷やひらめき消ゆる水の上  
耕や朝日の海を手を休め  
この丘や洋館建ちて沈丁花

追加吟 朝冷

庭池に惹つけし夜初蛙  
春の夜や何をこがむる箱の犬  
門前や朝から雨の春の山  
天人の袖に日かける汐干哉

▽當季雜詠募集  
▽送稿先

兵庫縣(芦屋局區内)深江 有田朝冷宛

▽表面に「千里山俳句」朱記の事

柿崎記念 寄附金申込者芳名 (終)

一〇	口	水谷 揆一氏	六	口	淺見 又藏氏
一	口	片口 安之助氏	一	口	宮崎 繁太郎氏
一	口	宮岡 恒次郎氏	一	口	志野 覺次郎氏
五	口	橋本 重幸氏	二	口	鹽谷 恆太郎氏
四	口	富田 金三郎氏	三	口	吉田 音松氏
二	口	戸田 孝作氏	四	口	黒田 莊次郎氏
二	口	西山 廣榮氏	二	口	水上 長次郎氏
二	口	棚橋 一郎氏	一	〇	川勝 武夫氏
五	口	喜多村 桂一郎氏	六	口	林 龍太郎氏
七	口	白莊 司芳之助氏	三	口	川地 喜三郎氏
三	口	寺島 小五郎氏	一	口	山口 造酒氏
二	口	植村 俊平氏	一	口	村上 喜貞氏
二	口	寺島 小五郎氏	一	口	宮島 綱男氏
二	口	寺島 小五郎氏	一	口	山口 房五郎氏
二	口	寺島 小五郎氏	一	口	白川 朋吉氏

兼ねて故柿崎欽吾氏が關西大學理事として永年盡瘁せられた功德を記念する爲め、本學圖書館内に柿崎記念文庫を設立するに就いて大方各位の御高援を御懇願申上げましたところ、幸ひ各位の御賛同を得爰に多額の資金を集め得ましたことを深く感謝致します。就いては去る三月三十一日を以て右御寄附の御申込を締切り計算の結果收入合計左記の如く相成りました。而して發起人會の決議により收入金は既に全額を關西大學に圖書購入費として寄附し領收證は柿崎家に於いて御保管を願ふことに致しました。尙右資金を以て購入したる圖書には故柿崎氏の小照を貼附し永く記念する筈であります。謹んで各位の御援助を謝し併せて右御報告申上げます。

大正十五年五月

柿崎記念文庫發起人一同

一、金四千壹百六圓六拾錢  
一、金貳拾六圓五拾九錢  
一、合計金四千壹百參拾參圓拾九錢

以上

寄附拂込金總額  
銀行預金 金子  
總收入 金

# 學生彙報

## 皇陵崇敬會第十回例會

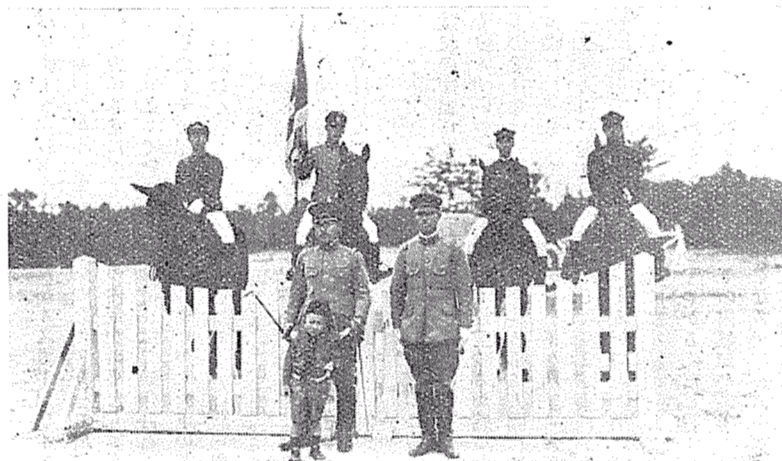
去る一月二十四日、寒風吹き荒ぶ大和平野の堅氷を踏み破つて集ふ會員十數名、先づ大軌電車を西大寺驛に乗り捨てて畔道を一路菅原神社へ詣で休憩所に於いて神主の詳細なる説明を聞く。更に冬枯野を通つて孫康帝の御陵に到り垂仁帝陵をも巡拜した。次いで唐招提寺に來て役僧に案内せられて金堂講堂を見學したが同時に聖武天皇を初め皇族大臣に菩薩戒を授けた唐の高僧過海大師が聖武孝謙兩帝の爲めに新田部親王の舊宅に創建したところであつて、幽閑靜寂の地に在り建物は特別保護建造物、奈良時代の特色を充分に發揮してゐる。辭して門を出で雪紛紛たる中を尙ほ藥師寺に訪れ講堂、金堂、東塔、東禪院堂、佛足石、鎮守八幡社等仔細に見學し夕陽漸く生駒山に傾かんさする頃無事歸阪したが、直ちに第二回總會を兼ねてカタヤ喫茶店に新年宴會を開いた。先づ幹事の會計報告、事業報告あり、左記の通り幹事の改選を行つて尙今年度の打合をなした。やがて熱い紅茶を啜りながら會員各自の旅行苦心談等あり、和氣霽靄裡に午後九時半散會した。當日の出席者左の如くであつた。

特別會員 小泉幸治、賀來俊一、河村信一、山本順應の諸先生  
會員 牧山儀平、藤原昌一、久保英一、入江堅壽、淺見敏郎、齋藤湊、岩田浩太郎、森井惣吉、奥川武郎、溝邊文和の諸君

尙本年度役員として左の如く決定した。

會長 小泉教授、相談役 河村講師、副會長 山下喜代志、山本順應兩氏、幹事 齋藤湊、森井惣吉、溝邊文和、入江堅壽、淺見敏郎の諸君

## 學友會馬術部員の活躍



優勝せる本學馬術部選手

學友會事業の一部たる本學馬術部は創設後日猶淺きにも不拘、日夜眞摯なる研究を猛練習を怠らざりし甲斐あり、去る四月三日、東京陸軍士官學校校庭に於ける關東乘馬大會を序幕に、次いで同十一日千葉縣下習志野騎兵學

校の習志野乘馬大會、同十七八兩日に互る名古屋に於ける、全國乘馬大會等に出場し、部員の力戦功を奏し、何れも優秀なる成績を挙げた、左に其の戦況を摘記すれば、

四月四日―三日は雨天の爲中止―此日出場チーム實に三十四校、我が關西大學を代表して札野、樋口、大谷の三君出場、健闘の結果遂に入賞二等の榮を贏ち得た。

四月十一日。千葉縣習志野陸軍騎兵學校校庭にて競技開始さる。我選手は何れも渾身の勇を奮ひ、一鞭長驅遂に群を抜き、樋口君一等續いて札野君二等を獲得した。

四月十七日、同十八日。名古屋市に於ける全國乘馬大會開催、此の時樋口選手高等馬術の粹たる障飛越に於て全く他の儕輩を壓し美事に成功し一等に入賞天晴殊勳を奏した。

猶部員一同は叙上の成果に慢ぜず、只に勝敗のみを念慮せず、より高い理想を把持して學術と運動と共に健實なる發達を遂けしめ、常に光輝ある我關西大學の名に於て、不朽の精神と學風とを天下に發揚せねばならぬと覺悟して専念精進して居る。

## 陸上競技部報

千里山陸上競技部では、去月十八日より明治神宮外苑競技場に於いて開催されたる、第五回東西對抗陸上競技大會に關西方出場選手として、福田、岸、津田、花谷、谷上、高野の諸君を出場せしめた。當日は五十五對四十七の得點にて關西方は惜敗したけれども、我が選手は何れも、華華しく闘つて美事なる成績を挙げた。左に摘記すれば、

岸源左衛門、千五百米一着(四分十九秒八)八  
百米三着。

津田晴一郎、千五百米二着。  
福田義美、二百米二着、八百米リレーにて關西方選手と共に優勝

## 庭球部報

藤本選手優勝―去月下旬神崎川コートにて舉行された大阪時事新報社後援大阪高等專門學校庭球戦に於て、本學出場選手中藤本卯吉君はシングル戦にて優勝した。同優勝戦の成績左の通りである

藤本(本學) 6-1 (醫大) 段塚

## 相撲部報

本月二日東京國技館に於て、大毎、東日兩社主催の東西對抗學生相撲大會に本學相撲部より、山口、岩佐の兩選手を關西方出場選手として送つた。關西方は四十七對四十二にて惜しくも敗れたけれども兩君は極力奮闘してその責を全ふした。

## 野球部報

本月一日より關西野球聯盟戦開かれ本學野球部は之に参加し秘策に耽つて天晴れ關西の覇者たらんとして居る。因に決定せるシエデュールは左の通りなり。

五月一日關西學院―同志社大學。六日關西學院―關西大學。八日關西學院―同志社大學。第二回戦九日關西大學―同志社大學。十五日關西大學―關西學院。―第二回戦。十八日關西大學―同志社大學第二回戦。猶九日のみ寢屋川残り全部甲子園球場、平日午後三時。日曜午後二時開始の由。

× × × × ×

雜 錄

初めてチヨークを執りて

今 山 生

(一)

孔子の所謂心の欲する所に従ふて律を越えない人間を作るのが教育の目的であり、又天分裕かな種子に機縁を興へて大材をなすにあると思ふ。聖書に芥子種の話や一粒の種若し地に落ちて死せざればといふ例も引用出来ませふ。私の學生であつた頃一人の先生は凡才教育を説いた。つまり、一つの天才を啓發せんために多大に努力するより、百の可もなく不可もない凡才を養成した方が國家にとつて、有益であると言ふのである。又、他の一人の先生は天才は天啓である。凡才千萬人の努力も一天才の一投足にも及ばない、青英即ち發育であるといふ。若い私はチヨット迷ふた。スマイルスは一つの問題に關して何等の意見を形成し能はざるものは馬鹿だと言ふたし韓非子は知つて言はざるは不忠であると言つて當らざるは不明であるといふ様な事を言ふた様に覺てゐる。不明とか馬鹿とかになりたくない私はそこで、私自身の意見を持たねばならない破目に陥つた。そこで前に書いた様な意見を抱くやうな次第になつたのである。

(二)

素より心の欲する所に従ふて律を越へない境地に達するのは、私の様な凡人では出来ぬ相談である。併しデューマのスリーマスケテアーズ等續卷を十年計りに讀んだのだが、其内に何でもタタロニヤンがアトスを評して「彼はデミッドだ」と言ふた文句があるのを記憶してゐる。それは小説

であるが新島襄先生が學生の前で自分の腕を鞭つた話は誰でも知つてゐる。世の中には時時エライ人が出るのは昔も今も變らない思ふ。併し凡人でも悲觀を要せない。尺に満たぬ松柏も培ふにその道を以つてすれば亭亭として天に參するに臻るのだから。

(三)

バナード、シヨウであつたかオスカ、ワイルドであつたか（本を全部失つたので斯様な時には考證に非常に困るが、その内金が出来たら本をうんと買込んで駄法螺を吹く積りだ、新井白石も折り焚く柴の記にも何でも豆を噛り乍ら天下の英雄の悪口を言ふのが一番面白いとあつた様に思ふ）The only way to get rid of a temptation is to yield to it.と言ふた、斯様なケツクにならなくては堪らない、それも良い意味に取れば良いが悪い意味にとつては大變だ。

(四)

試験の採點には閉口した、人間の感情は一夜にして變る。いや一時間の内にでも幾度變るか判つたものではない。完全に公正を期する事は人間には出来ない。そこで私は成るべく公正を期する爲に一クラスの答案は一度に採點してしまふ事にした。それでも不公平がある。自状するが初めの點は頗る甘い。それがだんだん申頃になり誰か一人變な事をかいてゐると何をいつてやがるんだと言ふ氣分になつて點が辛くなる。その内氣がついてこいつはいけないと、又點が甘くなる、だから中程に見られた學生が損なのだ、併し人生には禍福がある、幸不幸がある、それをいぢぢ嬉んだり悲しんだりして居た目には堪らない。人生の禍福幸不幸は餘りに多いのだから。

(五)

試験といふやつはやる方もされる方もいやなものだ。やる方は面倒臭いし、される方は辛いものだ。

しかし今の制度では試験をやるより外に方法もあるまいからまあお互に諦める事ですれ。諦めといふやつも存外必要なものだ。端唄にも何をよくよく川端柳水の流を見て暮すこゝろ。水滸傳にも面白い話があつたと思ふ。中學時代に讀んだのだから名前も所も忘れてしまつた。史進ではなかつたかと思ふけれど何でもその男が或る村の酒屋で酒を呑んでゐた。そこで陶器を背負つた軛幹槐俤の男がやつて来た。そこでこの男は物になるなと思ふてその男の迹をつけて行く内、その男の脊負ふてゐる陶器が一つ落ちて、ガチャンと音をたてて壊れてしまふたがその男は後をふり返らずに行く。一度迹をふり返るのが人情だ。そこでその男を呼び留めて、何故陶器が碎けたのは一度も後をふり返らないのかと聞いたら、その男が何阿と大笑して碎けた陶器が又元にもどるが、振り返つてよじやそれを拾ひあげてついで見たつて何の益があらうかと言ふた。そこで大いに感心して梁山伯の一味にしたといふ事だ。What has been done has been done. で試験の點なぞにはよくよくおぬ事だ。

(六)

併し試験を嫌ぶ學生が中にはある。斯様な學生は勿論自信のある連中だが内省すれば自己の優越感念を確め自己陶醉を樂まんとする人ではあるまいか。だがそれが何になるのか、學は自己完成にある。他人と自己の記憶力や推理力を競ふて一それも甚だ不完全な不公平な方法で何になる。試験の爲に勉強するのは誤りだ、桃李言はざれども下自蹊をなすのだ。ただ黙つて勉強すればよいのだ。試験の點を苦にする様では大器とはなれない。中村は公さんは大學時代に「何憂席序下便」と言ふておさまつて居た瀨石さんの「滿堂」ところに書いてある。

(七)

佐々木邦さんの珍太郎日記を見るに試験の採點法で、面白い話が出てゐる。達海さんが珍太郎のお父さんに試験の答案紙を見る事の如何に面倒臭い事であるかを説き簡単に採點する方法の有無を聞いたら、月並なのは最初九十五點に初り五點下りで六十點までゆく、六十點以下は落第點である。そこで今度は五點上りで九十五點まで行く、も一つは答案紙をバラバラに室内に撒くとして室の中央に落ちたのを百點とし、中心から最も離れて落ちたのを六十點とし、その間の答案紙は尺度に依つて點數をつけると言ふのである。若し私が斯様な方法をさるなら、最も手間のかからぬ方法をさる。それは子供に點をつけさすのである。私の子供は既に七歳一から百までは勘定し得る。そこで子供に落書をさせる。勿論子供は嬉しむ。おやぢは手を濡らさず探點が出来ぬ。併し斯様な事を私が實行したと思はれては困る。これはただ話である。

(八)

時は問題を何にもかゝぬ人があるには困る。白紙に點はつけられない。私の友達で宮崎中學に居た頃、三角の試験に弱つて仕方がないので「三角や四角で世をば渡られず五問題には頭かくかく」と言ふ様な事を書いた事がある。洒脱な話である。

(九)

人生に於て學生時代が一番楽しい時である。已に青春に恵まれてゐる。ベニスのサンタはアントニオに少壯それ幾何の時を男子何の爲すべからざる事あらむと煽動した。秦の始皇帝は秋風賦で、少壯幾何の時ぞ老を奈何せむと謂ふた。風塵に老ゆるのを悲しんだのである。若い内には誰だつて青雲の志を抱かぬものはなからう。私だつて今でも圓南の志とか鵬翼萬里とか丈夫四方の志ありとか大丈夫馬革に包まれて死すべし婦女子の手に死なんやとか言ふ様な言葉が目の前にちらつく。今の札幌の農科大學がもと農林學校であつた時代

には随分變つた人物が排出したと聞いて居る。これは教授クラーク氏に負ふ所が甚だ多いとも、誰やらに聞かされた。クラークが札幌を去る時馬に乗つて落葉松の並樹を過ぎ送つて来た學生に、朝霧の内から Boys he ambitious と叫んださうだ何と言ふ痛快な言葉であらう。神に光、地に平和人に學、青春に野心だ。

(十)

青春時代には随分無鐵砲な考へを起すもので、私なども支那の第一革命の時には孫文の子分にならうとした事もある。若しなつて居れば今頃はまあ漢陽邊の土だ。その他椰子香る南洋の濱邊、鰐魚眠るカンチスの上り、流水に熊吼ゆる北溪、レモン薫る南歐それから、黒い眼に茶色な目―これは蘆花さんの言葉を拜借した―が如何に私の若い心を唆つたか。

(十一)

Youth lives on hope old age on remembrance.

といふ事がある、青年は夢を見る、老人は直ぐ私の若い頃には惡かつた事は皆忘れて―いや忘れた様な顔をして―とくどくどと説教を初める。併し希望が必要であるのは、青年許りではない。人生を通じて希望は必要なのだ。死刑廢止論者の立脚點は希望を奪ふ事の如何に残酷なるかと言ふ事だ。恰度クロボトキンが相互扶助論を持ち出した様なものだ。人間は自己の幸運を信ずるものだ。勲業債券だつて今に五千圓も當るだらうと思つて皆買つてゐる。今に當るだらうと思ふのが希望なのだ。或人は斯様な事を言ふ。甲が乙を殺さうとする。乙が意識した以上無抵抗で殺される事はないし―尤も無我の愛とか無抵抗主義を極端に實行すれば、ともかくも―としてたうたう甲が乙を殺したとする、しかし乙は死ぬ瞬間まで希望―誰か助けてくれるかそれとも何かの幸運に依つて殺されぬであらうといふ―を持つて居るといふのだ。然るに死刑を宣告された人間は全然希望を奪はれ

る若し今日の刑法が悔改主義を探るなら殺してしまつて、その人間が天國か地獄で悔い改めても追付かないし、復讐主義を探るにしても希望を奪ふ事は殘虐である。如何なる罪惡を犯したにして希望を奪ふほど残酷な事はないと、まあ斯様な言ふのである、これは希望が如何に人生に大切なかを説いた迄である。若い内に經國の夢も戀愛の夢も見事だ、いずれそれは時と金とが萬事を解決し

學生の軍事教育は最近本邦の諸大學に於いても盛に行はれてゐるが圖は大戦當時一時英國の陸軍大臣をして大タービナー卿がイギリス大學生 O.T.C.



(Officers Training Corps) の騎兵小隊がイースト―休日を利用してヒズレー (Balely) に野營してゐるのを訪ふて之を檢閲してゐるところである (近著タイムズ週刊誌中より)

(十二)

青春は尊い、子川の邊りに在つて曰ふ。逝く者は夫れ斯の如きかな、晝夜を舍かず處の驢きではない私も双鬢漸く白霜を加へて、少少悲觀して居る氣は若いのだがなあ、青春を自己の爲にのみ利用する者はデカダンスになる患がある。伯夷七歳に

して舜の師たりた管公七歳にして一絶を賦し、爲朝十三才にして九國を平定したのだ。マルコニイだつてワイヤレスを發明したのは二十三の時だ。聖書には汝等若きを以人に輕んぜらるる事勿れ、ただ言と行と信を以て之に勝つべしとある。大器晩成もよいが大器早成の方がなほ善いと思ふ。併し一方には晩成がある。安田善次郎さんは男盛りは七八十、四十、五十は小僧子だといふたさうな。善次郎さんは萬年男だ。

(十三)

二十にして少艾を思ひ三十にして名を思ふのは人情である。青春は危險期である學生諸君宜しく三思すべしだ。菜花十里芽芽青きこと萬傾雲雀がチイチクチイチクと轉る。青山は黛の様に河水は洋洋として海に朝する。それが青春なんだ。その先に如何なる Terra incognita があるのだと思ふ。そして行つて見たいと思ふ。それが希望なのだ處が人生には Floating sand が多い。馬や車を呑む處の騒ぎではない。人の一生を呑む。そこで指針を必要とする。それが教育なのである。教育は太陽や土壌や水の様なものである。種子に適當な温度と適度な水分を與へそして又適宜な發芽すべき場所を與ふる事である。初めから死んで居る種子は到底發芽しない。それが孔子の下愚は當らずである。その危險期に善處せしむるのが教育の一方面である。即ちその時代に推理、批判、決断、克己、自制等諸徳を培ふのである。物理や化學や算術などを學んだら自己完成が出来るものかといふものがあつたら、それは明かな誤謬である。物を知ると言ふ事は、頭を練るといふ事である。講義本一冊讀んだつていろいろの教訓が得られる。講義本を一冊讀んでもその中には一人物の人生に對する見方がある。いつであつたか落語本の中に下駄な自駄落にぬぎばなしにしてゐる内は泥棒に這入り易いと言つてゐるのを讀んだ事がある。ただ下駄を自駄落にぬぎすする丈けなら

それで其ののだがその自駄落な心が日常の行爲を支配するのだから堪らない。學生は宜しく多讀すべく又精讀すべきである。教科書やノートのみ拘泥してはいけない。小説も講義も讀むことだ。

(十四)

人生のフローチングサンドは金と女と酒である。それに關聯して人情の反覆がある。行路の難きは山に非ず、河に非ず轉た人情反覆の間にあると誰やら言ふた。―大行の路よく車を碎き、巫水の險よく船を覆すも是を人心に比すれば坦途であること李白がいふた。金の爲に身を誤るのは新聞で御承知の筈、女の爲に國を失ふたのも國を興すの忠臣國を傾くるの色一帆共に赴く五湖の風でお馴染な事と思ふ。酒の―いやこれはいけない酒の悪口だけはよしませう。私の頭には何事も世のわずらひを忘れさす酒の功徳は宏大無邊なんだから、若い學生が所謂フレッシユ、フロム、スクールで酔曠たる人生に當面して一番墮落する機會の多いのは大阪だ。その點でも關西大學の使命は重大であると思ふ。

(十五)

今日 I 君に遇つたら君は教室でお行儀が悪いといふ評判だ。それは商料(福島)の三年生がいふて居る今に先生に叱られるぞ。先生といふものはキドラないといけない、つまり生徒にエラソーに見せればいけない。と忠告された。I 君は私の同窓である曾つて關西學院や同志社大學の先生をして居た事がある。今は今の支配人だが書を寄せて曰く「君が東京に来たら鏡子は三時間半である必ず来い。生徒の操縦術を教へてやるから」―と素人の私はいろいろの赫かされる。こゝも浮世だなあと思ふた。が、私は別に學生を操縦しやうとも思はぬし、又自分以上に買はれ度いとも思はない。私は學生を有の儘に見度いと思ふし。又學生も私をありのまま (第一八頁に續く)

### 歐米諸學者の面影

去る四月から新學期が開始されて各部各學年の學生達は何れも新しく定められた教科書を抱え嬉嬉として登校してゐるが、左に各原書

Wealth を經濟學科及商業學科に於いて宮島教授が講じてゐる。

Distribution of Wealth, 1904.  
Principles of Rural Economics, 1911.

Government Control of the Liquor Business in Great Britain and the United States, 1917.

Principles of Political Economy, 1919.  
Elementary Economics, 1920.

授教—アヴァーカ



The Economy of Human Energy, 1924.  
The Present Economic Revolution in the United States, 1925.

Ely, Richard Theodore (1854—)  
四月十三日ニューヨーク州の片田舎に生れた。アメリカの經濟學者であつて、父は土木技師、母は風景畫家であつた云ふ。一八七六年コロンビア大學を卒業してヨーロッパに留學し、ハイデルベルヒ、

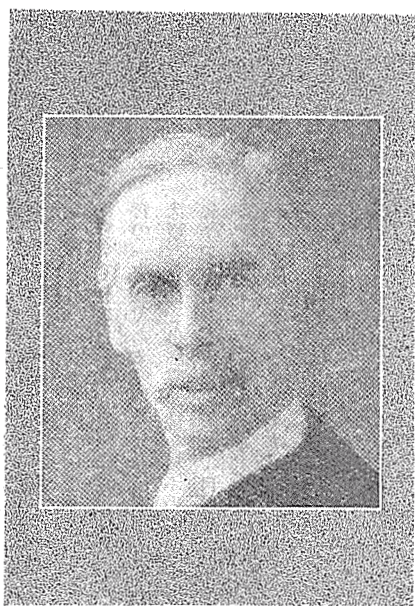
### カーヴァー

Carver, Thomas Nixon (1865—)

アメリカの經濟學者であつて一八六五年五月二十五日に生れ一八九四年から六年間 Oberlin College に教授たり一九〇〇年ハーヴァード大學に轉じて助教授となつた。一九〇二年教授に進み以て今日に及ぶ。現に Royal Economic Society (England) 及び American Academy of Arts and Sciences の會員であり又一九一六年には American Economic Association の會長に推された。著述の主なるもの次の通りであるが右の中本學では Distribution of

ハルシ、ベルリンの諸大學に學び就中ハイデルベルヒでカール・クニース教授の感化を受け

授教—リブホ



た。同大學で Doctor der Philosophie の學位を受けて一八八〇年歸國、翌年 Johns Hopkins 大學の經濟學教授となり一八九二年ウィスコンシン大學に轉じて經濟學及び財政學を講じた。現に同大學の經濟學部長をしてゐる又會つて American Economic Association の創立に與つて力あり二年間其會長となつ

Principles of Economics” は門下生たる故 G. R. Wicker 教授との共著であるが其他の諸著作を通じてイリー教授は學風の穩健なることを以つて知られてゐる。左に著書の主なものを掲げる。

### ホブソン

Hobson, John Atkinson (1858—)

六月六日ダービーに生れ、オックスフォード大學のリンコルン・コリッジ卒業の後暫くしてオックスフォード大學及びロンドン大學の講師となり専心經濟學を研究した。其間又社會主義者中の知識階級とも交り其主張に聞くことも少くなかつた。彼は種種の經濟問題に關して多くの著作を發表してゐるが何れも其卓見を科學的洞察の透徹せるに依つて學界に重んぜられてゐる。今後雖も經濟學界

授教—リイ



たこともあつた。本學大學豫科第三學年に於いて沖中教授の用ひてゐる "Elementary

授教—ムレサルエ



に於ける教授の地位は益々獨自のものがあるであらう。本學では商業學科に於いて中西講師



が同教授の "Gold, Prices and wages" を講じてゐる。其他の著書の主なるものを左に掲げる。

Evolution of Modern Capitalism, 1917.  
The Science of Wealth, 1911.  
Economics of Unemployment, 1924.  
The Industrial System, 1909.

**エルサレム**

Jerusalem, Wilhelm (1854—)

ドイツの有名な哲學者であつて數年前に物故した。生前にはウィーン大學ギムナジウムの教授として令名があつた。教授はその哲學、論理學、心理學等に於いて生物學的發生論的立場を採り、フレンターノ等の先驗哲學や、フッサル、コーエン等の論理學に強く反對してゐる。本學豫科第三學年に於いて武内教授



授教ドンウバ

が講じてゐる "Introduction to Philosophy" はエルサレム教授の Einleitung in die Philosophie, 1809. の英譯である。教授の著作の主なるもの次の通りである。

Urteilsfunktion, 1895.  
Über Psychologie und logischen Urteils-

theorien,  
Lehrbuch der Psychologie, 1907.  
Gedanken und Denker, 1905.



Der Kritische Idealismus und die reine Logik, 1905.

**ハウンド**

Pound, Roscoe (1870—)

ハーヴァード大學の法理學教授、ドイツ流の法理學が徒に形式論に陥るのを避けて社會學的功利主義的見地に立つてあらゆる法律問題を論じ學界に幾多の貢獻をなしてゐる。本年五十六歳であつて一九一〇年以來現職に在り、講義の餘暇には執筆學外講演にも足らぬ有様である云ふ。本學では佐々教授が其 "The Spirit of the Common Law" を法律學科に於いて講じてゐるが其外に公刊された主な

る著述を舉ぐれば次の通りである。  
Outlines of Lectures on Jurisprudence, 1914.

**ンキスラ・ンヨジ**

An Introduction to the Philosophy of Law, 1922.  
Interpretation of Legal History, 1923.  
Law and Morals, 1924.

**リカード**

Ricardo, David (1772—1823)

スミス・マルサスと共に濟經學の三創設者 (Three Founders of Political Economy) と稱せられる人、株式仲買を業とする人を父としてロンドンに生れたが、若くして獨立し自ら株式仲買の店を経



ドーカー

營して大いに産をなした。二十七歳の時國富論を讀んで濟經學に興味を覺え始めて斯學の研究に没頭するに至つた云ふ。晩年には下

院議員に選ばれたりしたがリカードの名を不朽ならしむるものは何云つても濟經學者としての彼である。  
本學濟經學科に於いて沖中教授が講じてゐる "Principles of Political Economy" はアマノヘイ教授の抄録本である。左に主なる著書



スミス・ムグア

を掲げる。

The High Price of Bullion, 1810.

An Essay on the Influence of Low Price of Corn on the Profits of Stock, 1815.

Principles of Political Economy and Taxation, 1817

**ラスキン**

Ruskin, John (1919—1900)

スコットランドの酒商人を父として二月八日ロンドンに生れた。英國に於ける有名な藝術並びに文明批評家であつて殊に其絢爛たる筆を以て知られてゐる。當時は恰もアダム・スミス以下の自由主義濟經學の勃興期であつたがラスキンは其思想的根底をなす功利主義哲學にあきたらず、濟經學を "陰鬱科學" ("Dismal Science") と罵り大いに人道主義を高張した

大學豫科第二學年に於いて山村講師が講じてゐる。「Unto this last」は主に此の經濟學に對する人道主義的批判を内容とする著作である。

### アダム・スミス

Smith, Adam (1723—1970)

經濟學の創始者として將た名著「國富論」の著者として遍く世に知られてゐる學者である。殊に本年は國富論出版後五十年目に當り本學に於いても記念の催物が種種行はれたことはスミスに關する事績と共に前號並びに前前號に所報の通りであつて、ここに再び繰返すの要を見ない。唯本學經濟學科及商業學科に於いて用ふる「The Wealth of Nations」はアッシュレイ教授 (Prof. Ashley) の抄録本であつて森下教授が講じてゐる。

### Espinas の Durkheim の發音について

A. Espinas の E. Durkheim のは共に著名な學者であるが、此等の名前を如何に發音するかは人に依つて必ずしも一定せず、殊に之を日本の假名に書く場合に於いて前者は之をエビナー、又はエスピナー、後者は之をデュルクハイム或はドユルクハイム等々なし區別にして一定せるものがない。然るにこの度パリ大學のフーシェ博士が佛敎美術研究の爲め來朝せられたについて、本學宮島教授が同博士を迎へて一夕歡談の序に其發音を訊されたところ同博士は前者をエスピナス、後者をデュルクハイムと發音するのが正しい旨を答へられた。殊に Durkheim は同博士の親友であつ

て彼自らもデュルクハイムと云つてゐるさうである。學問に親む者の心して置くべきことであらう。 M. T 生

### 千里山歌壇 編輯局選

△友に與ふ 珠川俊一

つれなきは此の世のおきて我れと我が心に淋しおきらめを説く

△暮春 鈴木たけを

小供等の去りにし跡の静けさにふつと寂しきこころ起りぬ

△夕暮れの本陰に一人たつめば櫻の花の散りて寂しき

△行き過ぎしひとの姿のあまりにも君に似たるにふり返り見ぬ

△あきらめ 藤村まさる

もの學ぶ名をば誇らんれきこの悲しくもあり君をし思へば

その君に告ぐるにあらでさらばさはおのが心に贈くる言葉ぞ

(第一五頁より續く)

まに見て欲しいと思ふだけだ。買ひ被られる事は苦痛である。それが言ふて自分が信ずる以下に蔑視されるのも不愉快である。要は教ゆるものと教へらるるものととの理解が必要なのだ。私は本當のままの姿で學生に接しようと思ふ。假面を被る事は私の出来る藝當でない。唯、慣れて禮を失はぬ様、和して紊れざる様な程で端祥の別天地を作り之を社會に贈り以て國家有用の材になしたいと思ふ。

(十六)

人世の見方は年齢に仍つて異なる。若い内には人世はただ自分の爲めに作られてある様に思ふ。處が世間に出て見ると決して人世が自分の爲めに作られて居るのではないといふ事を痛感する。そして社會學の第一頁を實地に學ぶのである。善い主人を持つた人はその人の幸運であり。悪い主人を持つた人はその人の不運である。故石川さんの歌に「氣の變る人に仕へてつくづく我世が厭になりけるかな」と言ふのがあるが青春そのものの若い學生が世間に飛び出して斯様な嘆息をする事もあるであらう。「小猿めが狼の前に出た様な重役の前の社員達ほも」といふのは私の歌である。 Might is right である。カイゼルはベルジャムを侵略するに際して條約文はスクラップ、オプ、ペーパーだと言つたがそれよりゾット前に紅葉山人は金色夜叉で貫一を國際公法は尻のカツパといふてなぐらせた。併し斯様になつては弱者である。我我は堪らない、自己完成といふ事は人格の

完成である。即ち前に言ふた様に心の欲する所に從ふて律を越へない事を理想とせなければならぬ。

(十七)

死魚は流水に從ふ人世の禍福が必ずしも、その人の人格を決定するものではない。ソクラテスは毒盃を仰いだキリストは豫言者はその古里に於て辱ばれる事なしといふた。昔から先覺者は皆不幸であつた。それがいふて時世に遅れるものは皆捨てられる。時勢に順應するものが一番働功な譯ではあるが、しかし今日の文化は決して時勢に迎合したものの賜ではない。古來幾多の天才が如何に忍従の生活をしたか、社會の埋木である人人の努力が如何に世に貢獻したか、自己奉仕が即ち社會奉仕と一致する境地に到らねばならない。近來社會奉仕で商品を高く賣る商人が往往にあるが、いつはいけない。(未完)

### 大阪附近在住諸友に告ぐ

關西大學校友會大阪支部本年度春季大會を左の通り開催致しますから會員各位は萬障御繰合せの上奮つて御出席下されたく此段御案内申上げます。大阪附近在住校友諸氏の中未入會の方はこの機會に是非御入會の上右大會に参加せられんことを御勧誘申上げます。尚ほ詳細は下記につき御開合せ下さい。

- 一、日時 五月二十三日午後四時
- 一、場所 堺大濱茅海樓
- 一、備考 堺市附近名所見物希望者は午前九時阪堺線惠美須停留所參集

大正十五年五月  
大阪府關西大學  
關西大學校友會大阪支部

本學擴張基金寄附申込者芳名

(校友の部)

備考

イロハ順

一口金五拾圓

口 大ニ五專法

飯國壯三郎氏

口 同

磯田英夫氏

口 同

井上彌平氏

口 同

井内源次郎氏

口 同

土生俊彦氏

口 同

林岩夫氏

口 同

春木種雄氏

口 同

西岡作太郎氏

口 同

西元梅松氏

口 同

坊農佐一郎氏

口 同

細川正敏氏

口 同

島山與一郎氏

口 同

富川竹治郎氏

口 同

沼田平一氏

口 同

岡田登氏

口 同

奥野秀吉氏

口 同

大原資可氏

口 同

大江久五郎氏

口 同

奥野茂氏

口 同

大石鼎氏

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

口 同

片山文雄氏

柏原寅藏氏

吉田錦一郎氏

吉川秀氏

米田荒助氏

吉富籌氏

四辻菊治氏

横山森近哉氏

吉田政光氏

吉田幸太郎氏

田中渦穂氏

玉野力氏

田中久男氏

高橋十二氏

高田瑞穂氏

田頭貞巳氏

高原孝吉氏

辻井安英氏

成田重信氏

中井一二三氏

中野憲輔氏

中島義一郎氏

中村嘉藏氏

長尾景平氏

永田藤助氏

中岡正一氏

中尾克己氏

永田千里氏

永田口峰雄氏

牟田口重吉氏

村田重吉氏

上野山壽二郎氏

植木惣助氏

野田彌一氏

野坂真三氏

久保好太郎氏

山下寛氏

築瀬春雄氏

山本政吉氏

山崎義輝氏

安富敬作氏

山口晶一氏

山本洋平氏

山本富雄氏

山田謙氏

山地仁氏

山口正雄氏

山川芳一氏

山中源喜氏

山口健治氏

前川忠五郎氏

丸尾不二男氏

眞津庫造氏

増成勝治氏

眞鍋竹次郎氏

藤田龍次郎氏

藤井里志氏

藤田芳顯氏

古谷金喜氏

藤原徹鏡氏

藤原勝氏

藤田顯美氏

舟津和夫氏

藤崎峻氏

福岡鼎氏

小笹信治郎氏

小谷勇雄氏

江本雄一氏

相場嘉榮氏

青山繁治氏

淺田繁太郎氏

澤岡留藏氏

坂井宗十郎氏

坂口詮氏

阪口芳治氏

木村房治郎氏

城戸弘氏

油谷英一氏

明神信明氏

光行龍生氏

三好寅雄氏

三島楠夫氏

三島義孝氏

島村保穂氏

志水說二氏

七野吉之助氏

平野宿彌氏

森野正義氏

森原彌三郎氏

杉本宏治氏

井上卯一郎氏

井戸崎好次氏

伊東潔氏

井上正臣氏

長谷川好治氏

西村德治氏

土肥靖彦氏

富田民治氏

富田貞督氏

小川義英氏

小原勇次氏

大ニ五專法



(第七頁より續く)

隷貿易のみならず奴隷制度そのものの廢止をも目的とする「融和協會」(Société des Amis des Noirs)なるものが一七八八年にパリで設立せられた。總裁は Condorcet で、會員中には Rochefoucauld 公爵 Gregoire 僧正、Brissot, Clavière, Pétion, La Fayette 等が居り、Mirabeau の如きも熱心な賛同者であつた。英國に於ける同一運動の大原動力はキリスト教的精神であつたが、佛國に於てはそれは革命運動と結合せる人道主義的熱情であつた。

一七八九年に幾人かの黑白混血人がパリに於ける有色人民の權利の確認を國民議會に求めんがために St. Domingo から來てたのであつた。一七八九年八月の「人權宣言」は彼らの主張と一致するやに思はれた、然し一七九〇年の三月に、St. Domingo に於ける植民業者たちの不平離反の風聞に脅かされたる議會は「母國のために制定されたる憲法には、植民地の内治に關する事項を包含せず」この決議を通過させた。當時パリに來てたる混血人の代表者の一人である Vincent Oge は、自が民族の熱望の達せられざるを知り、憤然去つて郷土に歸り、一七九〇年十月上陸と同時に書を植民地總督に發して、若しその誤れるを改めずんば同胞のために武器を取て立たんとの意思を表明した。彼は僅かの同志と共に實際武器を取つて起つた、然し忽ち打ち破られて已むを得ず同島内のイスパニア領に遁れた。後彼は逮捕せられ、裁判の結果刑車に乗せて粉殺されるべきものの判決を下された。この報が一度パリに達するや、植民業者に對する猛烈

なる反抗の氣勢が舉つて來た、かくて Gregoire 公の動議に基き、一七九一年五月十五日の議會は「自由民である両親から生れた佛領植民地の有色居住民は、凡て佛國市民同様の私權を享有し、且つ他の者に伍して地方及び植民地議會の被選資格を有するもの」なる旨を議決した。

同年八月二十三日には St. Domingo の北部地方に於て黒人の叛亂が勃發し、忽ちにして西方に傳播した、西部地方では黒人と混血人が協力した。幾多の暴行が叛徒に依つて演ぜられ、僅かに下等なる蠻行に依つて報復せられた。佛國議會は植民地の喪失を慮れ、九月二十四日に前記五月の法令を廢止した。

この優柔不斷の態度は同島内に於ける諸黨派間の融和を全然望みなきものたらしめた。フランスから派遣された内國委員たちは總督と争ひ、黒人の叛徒を招いて彼らを援助せしめた。Cape Francois の白人居住民たちは虐殺せられ、市街は大部分灰燼に歸した。植民者たちは今や英國に歸順せんことを申し出てその救援を求めた、而して英國の一軍隊が同植民地に上陸した。然しそは共和國の軍隊及び黒人並に混血人の叛軍と會戦するには不充分であつた、幾多の困難を経て、結局英軍は一七九八年に同島から撤退するの已むなきに至つた。英軍の撤退と同時に同島の支配權は Toussaint l'Ouverture の手に歸した。かくて

奴隷制度は消滅し、黒人たちはその收獲物の三分の一を報酬として受くる被傭僕婢となり文化の向上と生活の愉樂とに従つて人口は急速に増加するに至つた。全島は今や完全にフランスのものとなつた。Basel 條約に依りイ

スパニア領は悉く讓渡されたのである。

Toussaint の希望は St. Domingo が實際に獨立を保ち、ただ佛國の主權と商業上の特權を承認せんことにあつた。同島に對する Bonaparte の亂暴なる裏切的行動の結果、黒人たちは彼らを鎮定せんがために派遣された軍隊を驅逐し、會て一再ならず改修された彼ら自身の憲法を制定した。同島を領有せんとして復興政府が奴隷制度の再建を熱望し減少せる人口を回復せんために奴隷貿易を再開することをすら熱望せるは疑ひなきことである。然し Bonaparte は百日間該貿易を禁止した、但し彼も亦 St. Domingo 即ち今やその元の名稱で呼ばるるに至つた Haiti の住民を征服して歸順せしむることに失敗したのではあつたが、Bourbons 朝廷も再びその勢力を恢復した際に奴隷貿易を再開することを得ず、同島征服の希望は全然放棄せられ、かくて一八二五年には Haiti の獨立は完全に承認せらるるに至つた。(未完) — 經世抄譯 —

### マージナル未亡人から來信

過般本學宮島教授からマージナル未亡人へ宛て戸田留學生の渡英につき種種便宜を計られたき旨申送つたところ、この程同未亡人から左の通り快諾の返信があつた。尙ほキャンナン教授からも曩に同様の書信があつた。

It is always a pleasure to me as it was to my husband to become acquainted with students in Economics from Japan, and I shall hope to see Mr. S. Toda when he comes to Cambridge.....

### 學生諸君に告ぐ

#### 千里山學報投稿に就て

▼學友會各部の記事、各種研究會、親睦會、縣人會その他學生諸會合の記事、論文、文藝作品等本誌に掲載希望の原稿は、總て千里山學舍圖書閱覽室内及び福島學舍學生入口左側に設置してある千里山學報投稿函に投入して下さい。但し寫眞その他投入不能の材料は事務所又は學報局へ直接提出して下さい。▼每號締切は前月二十五日限りとし、その以後の分は次號に廻します。

大正十五年五月 關西大學學報局

大正十五年五月十三日印刷  
大正十五年五月十五日發行

### 不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世  
關西大學學報局  
大阪府此花區上福島北二丁目  
印刷者 飯田彌之助  
大阪府西區土佐堀通四丁目五番地  
印刷所 三有社  
大阪府此花區上福島北二丁目  
發行所 關西大學學報局

福島學舍 關西大學  
大阪府此花區上福島  
電話土佐堀 一〇四九  
電話土佐堀 一五七〇  
千里山學舍 關西大學  
大阪府外千里山  
電話吹田 一一三

### 關西大學校友ソノ他關係者各位へ

●千里山學報維持費トシテ、校友ソノ他關係者各位カラ續續多額ノ御出捐ニ預リ有難ク幾重ニモ御禮申上ゲマス。

何時モ申上ゲテキマス通り、出來ルナラハ每號無料デ御配付申上ケルノガ本意デアリマスガ、今ノトコロドウシテモ各位ノ御援助ニ俟タナケレバ、到底發行ヲ續ケテ行クコトノ出來ヌ状態ニアリマスノデ、遺憾ナガラ不遠慮ニト言フヨリモ寧ロ進ンデ御寄捐ヲ仰イデキル次第、何卒惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒマス。

●金額ハ各位ノ御志ニ委セル外ゴザイマセンガ、大體年額貳圓位御寄捐願ヘマスレバ收支相償フ旨申添ヘテ置キマス。

●從來御出捐願ヘナカツタ方ニ、コノ際何分ノ御援助ヲ御願ヒ申シ上ゲマス。ソシテ新タニ御出捐下サル方ハ、御手数數デスガ左ノ申込書ヲ御切り取り下サイマシテ、金額ナリ拂込方法ナリ適宜御書入ノ上御送付願ヒマス。

●尙ホ、一年以上繼續御送申上ゲテ井ル方デ、今尙ホ御出捐ガナク、且ツ維持費ニ付テ何等ノ御通報ニモ接シナイ方ハ、或ハ送付先ニ現住サレナイノデハナイカト存ジマスカラ、今後發送ヲ見合セルコトニ致シマス。

大正十五年五月

關西大學學報局

### 千里山學報維持費拂込申込書

住所

年度

科

名 貴

金額

一金

拂込方法

振替貯金又ハ郵便爲替

集 金 郵 便

(何れか一方を抹消して下さい)

關西大學  
關西甲種商業  
關大第二商業  
指定洋服商

大阪市上本町六丁目

### 長谷屋 號

電話 南 四五一二番

振替 大阪 五五三八番

●今宮支店 ●釣鐘町支店

關西大學  
關西甲種商業  
關大第二商業  
指定

### 明文堂 野島書店

大阪市此花區上福島北三丁目

電話 土佐堀 一二八六番

振替 大阪 三九九九一番

本學校友 野島藤次郎

文房具、制 帽  
雜 貨、食料品

### 關西大學給品部

千里山學舍學生控所

福島學舍學生控所

内

關西大學  
關西甲種商業  
指定

### 山本靴店

大阪市北區上福島北二丁目

(但淨正橋筋大和田銀行前)

關西大學教授 宮島綱男先生著

# 經濟學原理

(卷上)

菊版總クロース製  
紙數約三百七十頁  
コロタイプ印刷像數葉  
定價金參圓五拾錢  
送料金拾八錢

著者が其透徹せる推理力と豊富なる語學力を以て研讀潜思幾年の後遂に成つたもの即ち本書である。堂堂一般經濟の原理を論じて照合するところ古今東西の史實、學說に亘り而かも之が嚴精なる批判檢討を通して導き出だせる結論を更に一步現代の經濟事實に近附けたる點に於いて學界稀に見るの好著である。行文

平明にして正確、敘述亦繁簡其宜しきを得て經濟學を正しく理解し現時行はるる諸種の學說に對して相當の批判力を得る爲めには先づ第一に讀まるべき書物である。加ふるに各節末には詳細なる參考書目を掲げて讀者將來の研究に便し書中引用するところの學說に關係深き學者の肖像を十數葉の鮮麗なコロタイプ版として挿み裏面に其傳記を附して、學說と時代の交渉並びに學說夫れ自身の印象を一層深からしめんと努めてゐる蓋し經濟學史としても一の纏つた好參考書である。尙ほ本版には書中引用せる學者のインデックスを付し且つ第一、第二に洩れたる又は其後公刊せられたる參考書の目録を増補した。敢へて大方に獎む。

東京市神田區錦町一丁目二番地  
**瞭文堂** 發行所  
 振替東京五〇三六一番・電話五〇四一〇番  
 大阪府西區阿波堀通四丁目  
**大阪寶文館** 株式會社 發行所  
 振替大阪三〇四三番・電話三〇三三番

千里山學報 第三十九號

田川七郎先生著

# 珠算要義

菊版總クロース製  
紙數約二百七十頁  
定價金壹圓參拾錢

著者は曾つて實際に算盤をとつて實業界に活動し、或ひは陸軍將校實業講習會に於いて珠算を講じたることありしのみならず現に關西甲種商業學校、關西大學第二商業學校及び北陽商業學校に於いて珠算科を受持ち令名ある人、多年に亘る經驗と研鑽の結果を傾けてここに本書をなす。編を分つこと七、苟くも珠算に關することにして細大説いて盡さざるなく、加之、附録として多數の練習問題を掲げ以つて教授並びに獨習の便に供す。蓋し教科書として將又一般參考書として良著の最たるを失はず、敢へて江湖に薦む。

發行所  
 東京市神田區錦町一丁目  
**瞭文堂**  
 電話五〇四一〇番・振替東京五〇三六一番

一三三

大阪地方裁判所部長  
關西大學講師法學士

和田于一著

# 婚姻法論

(再版)

紙四六判總布上製  
數八〇〇頁  
定價五圓八拾錢  
送料拾八錢

關西大學講師  
辯護士法學士

入江眞太郎著

# 不法行為論 (第卷)

(再版)

紙菊判脊革總クロニス上製  
數四八〇頁  
定價四圓八拾錢  
送料拾八錢

關西大學教授

佐々 穆 著

# 國際民商法撮要

(新刊)

紙菊判  
數三七〇頁  
定價參圓參拾錢  
送料拾八錢

著者が最も得意とする婚姻法を法制的、比較法學的、分析的、立法學的に研究し、猶ほ斯法に關する判例の蒐集及び系統的の研究より婚嫁に關する皇室法の研究に迄及べる稀有の大著である。

我不法行為法と英米のそれとを比較研究したものである。一讀、世人は世界に冠たる英米不法行為法の體系を知り、立法者は我不法行為法改正の資料を得、又法曹は斯法解釋の材料を得る。

基礎準據法、國際民法、國際商法の三編、各部門の十八章に分ち、著者一家の見を示して詳述盡さざるなく能く國際私法學の各論的説明を與へてゐる。學徒も實際家も必讀すべき書である。

大阪北區會根崎  
上三丁目八番地

## 大 同 書 院

振替大阪三一七九二  
電話北一六五三